

第1章 人口動態

1 平成19年の概況

人口動態統計の概況を第1.1表に示す。人口動態の項目ごとに平成19年の本県の年間発生数をみると、出生数は46,393人で、前年の45,304人より1,089人増加し、出生率は9.2で前年の9.0を上回った。

死亡数は43,919人で、前年の43,270人より649人増加し、死亡率は8.8で前年の8.6を上回った。

乳児死亡数は110人で、前年の90人より20人増加し、乳児死亡率は2.4で、前年の2.0を上回った。

新生児死亡数は54人で、前年46人より8人増加し、新生児死亡率は1.2で前年の1.0を上回った。

自然増加数（出生数から死亡数を減じた数）は2,474人で、前年の2,034人より440人増加し、自然増加率は0.5で前年の0.4を上回った。

死産数は1,451胎で、前年の1,495胎より44胎減少し、死産率は30.3で前年の31.9を下回った。

周産期死亡数は202人で、前年の177人より25人増加し、周産期死亡率は4.3で前年の3.9を上回った。

婚姻件数は29,486件で、前年の30,006件より520件減少し、婚姻率は5.9で前年の6.0を下回った。

離婚件数は11,115件で、前年の11,291件より176件減少し、離婚率は2.22で前年の2.25を下回った。

第1.1表 人口動態統計の概況

項 目	福 岡 県						全 国	
	年 間 発 生 数			発 生 比 率		平成19年 平均発生間隔	発 生 比 率	
	平成19年	平成18年	対前年差	平成19年	平成18年	時：分'秒"	平成19年	平成18年
出 生	46,393	45,304	1,089	9.2	9.0	00:11'20"	8.6	8.7
死 亡	43,919	43,270	649	8.8	8.6	00:11'58"	8.8	8.6
自 然 増 加	2,474	2,034	440	0.5	0.4	…	-0.1	0.1
乳 児 死 亡	110	90	20	2.4	2.0	79:38'11"	2.6	2.6
新 生 児 死 亡	54	46	8	1.2	1.0	162:13'20"	1.3	1.3
死 産	1,451	1,495	-44	30.3	31.9	06:02'14"	26.2	27.5
自 然 死 産	534	505	29	11.2	10.8	16:24'16"	11.7	11.9
人 工 死 産	917	990	-73	19.2	21.2	09:33'10"	14.5	15.6
周 産 期 死 亡	202	177	25	4.3	3.9	43:21'59"	4.5	4.7
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	157	143	14	3.4	3.1	55:47'46"	3.5	3.7
早 期 新 生 児 死 亡	45	34	11	1.0	0.8	194:40'00"	1.0	1.0
婚 姻	29,486	30,006	-520	5.9	6.0	00:17'50"	5.7	5.8
離 婚	11,115	11,291	-176	2.22	2.25	00:47'17"	2.02	2.04

注：1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。
2) 人口は「平成19年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）を使用（全国126,085,000人、福岡県5,016,000人）。

2 出 生

(1) 出生の動向

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移を第2.1表及び図2.1に示す。平成19年の本県の出生数は46,393人、出生率は9.2で、前年の数、率ともに上回り、昨年引き続き増加を示した。合計特殊出生率は1.34で、前年の1.30を上回り、平成17年以降増加傾向が続いている。

第2.1表 出生数・出生率（人口千対）・合計特殊出生率の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	出 生 数	出生率	合計特殊出生率	出 生 数	出生率	合計特殊出生率
昭和22年	108,237	34.1	・・・	2,678,792	34.3	4.54
〃 25年	109,156	30.9	・・・	2,337,507	28.1	3.65
〃 30年	76,427	19.8	・・・	1,730,692	19.4	2.37
〃 35年	67,318	16.8	1.92	1,606,041	17.2	2.00
〃 40年	68,854	17.4	2.00	1,823,697	18.6	2.14
〃 45年	69,632	17.4	1.95	1,934,239	18.8	2.13
〃 50年	71,059	16.7	1.83	1,901,440	17.1	1.91
〃 55年	64,404	14.2	1.74	1,576,889	13.6	1.75
〃 60年	58,837	12.4	1.75	1,431,577	11.9	1.76
平成 2年	48,164	10.1	1.52	1,221,585	10.0	1.54
〃 3年	48,822	10.2	1.53	1,223,245	9.9	1.53
〃 4年	47,579	9.9	1.47	1,208,989	9.8	1.50
〃 5年	46,769	9.6	1.43	1,188,282	9.6	1.46
〃 6年	48,952	10.1	1.48	1,238,328	10.0	1.50
〃 7年	46,849	9.6	1.42	1,187,064	9.6	1.42
〃 8年	47,948	9.7	1.41	1,206,555	9.7	1.43
〃 9年	47,539	9.6	1.38	1,191,665	9.5	1.39
〃 10年	47,811	9.6	1.37	1,203,147	9.6	1.38
〃 11年	46,682	9.4	1.31	1,177,669	9.4	1.34
〃 12年	47,290	9.5	1.36	1,190,547	9.5	1.36
〃 13年	46,985	9.4	1.31	1,170,662	9.3	1.33
〃 14年	46,443	9.3	1.29	1,153,855	9.2	1.32
〃 15年	45,035	9.0	1.25	1,123,610	8.9	1.29
〃 16年	45,143	9.0	1.25	1,110,721	8.8	1.29
〃 17年	43,421	8.7	1.26	1,062,530	8.4	1.26
〃 18年	45,304	9.0	1.30	1,092,674	8.7	1.32
〃 19年	46,393	9.2	1.34	1,089,818	8.6	1.34

注:1)昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2)合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の子ども数を表す。国勢調査年次は日本人人口、他の年次は推計人口を用いた。

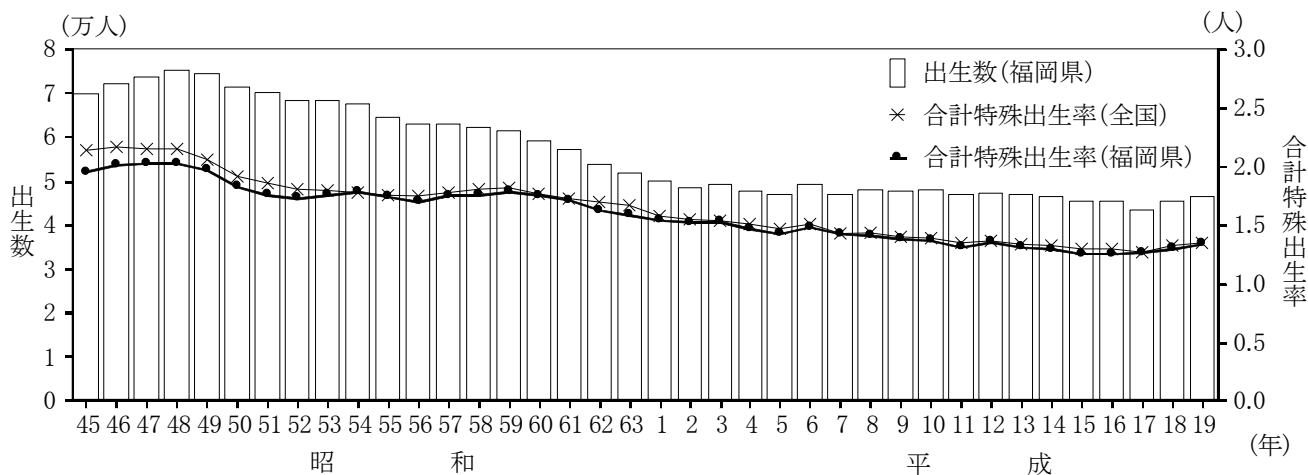


図2.1 出生数・合計特殊出生率の推移

平成19年の本県の市区町村別出生率を第2.2表及び図2.2に示す。最も出生率が高かったのは粕屋町であり17.4であった。次いで那珂川町が13.7、志免町と新宮町がそれぞれ13.4であった。北九州市、福岡市、久留米市及びその近郊市町村に出生率の高い地域が集積している。

第2.2表 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成19年・福岡県）

市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率	市区町村名	出生率
粕屋町	17.4	宮若市	9.8	築上町	8.7	大川市	7.3
那珂川町	13.7	久留米市	9.7	矢部村	8.6	豊前市	7.2
志免町	13.4	南区	9.6	中央区	8.6	小竹町	7.0
新宮町	13.4	八幡西区	9.6	うきは市	8.4	嘉麻市	6.9
篠栗町	12.3	水巻町	9.5	八女市	8.3	朝倉市	6.8
大野城市	11.6	大木町	9.4	糸田町	8.2	門司区	6.8
太宰府市	10.9	城南区	9.3	小郡市	8.2	上毛町	6.6
西区	10.8	前原市	9.3	戸畑区	8.1	鞍手町	6.6
広川町	10.6	直方市	9.3	宗像市	8.0	八幡東区	6.5
須恵町	10.4	古賀市	9.2	香春町	8.0	志摩町	6.1
博多区	10.3	大任町	9.2	筑前町	8.0	みやま市	6.1
小倉南区	10.2	福智町	9.2	遠賀町	8.0	添田町	5.8
筑紫野市	10.2	吉富町	9.0	岡垣町	7.9	みやこ町	5.7
春日市	10.1	宇美町	8.9	芦屋町	7.6	黒木町	5.2
苅田町	10.1	川崎町	8.9	柳川市	7.6	二丈町	5.1
東区	10.0	飯塚市	8.9	柳津市	7.5	星野村	4.9
筑後市	10.0	飯川市	8.8	福若区	7.4	立花町	4.9
大刀洗町	10.0	小倉北区	8.7	大牟田市	7.4	東峰村	4.6
久山町	9.9	赤村	8.7	中間市	7.3		
早良区	9.8	赤橋市	8.7	桂川町	7.3		

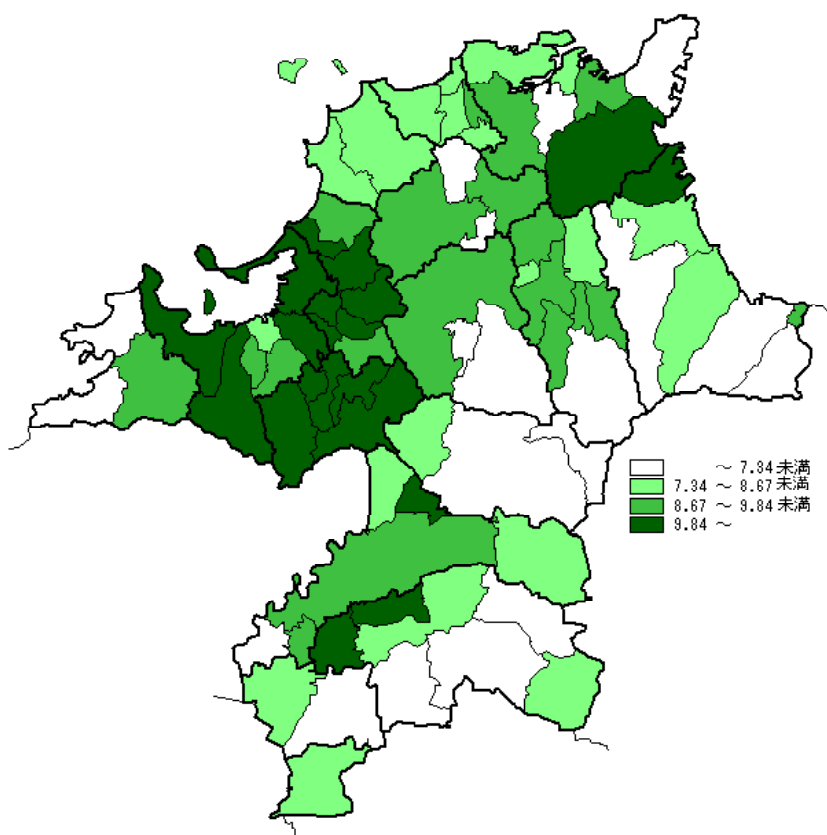


図2.2 市区町村別にみた出生率（人口千対）（平成19年・福岡県）

(2) 人口の自然増加の状況

人口の自然増加の推移を第2.3表に示す。自然増加数及び自然増加率は出生数及び率の減少、死亡数及び率の増加とともに近年減少傾向を示していたが、平成18年以降増加に転じ、平成19年は自然増加数2,474人、自然増加率0.5で、前年に比べ増加した。また、全国と比べると、この4年間は全国よりも

上回って推移している。

第2.3表 自然増加数・自然増加率（人口千対）の推移

年次	自然増加数		自然増加率		年次	自然増加数		自然増加率	
	福岡県	福岡県	福岡県	全国		福岡県	福岡県	福岡県	全国
昭和22年	60,155	18.9	19.7		// 7年	9,691	2.0	2.1	
// 25年	72,282	20.5	17.2		// 8年	12,150	2.5	2.5	
// 30年	47,349	12.3	11.6		// 9年	10,655	2.2	2.2	
// 35年	38,548	9.6	9.6		// 10年	9,793	2.0	2.1	
// 40年	40,730	10.3	11.4		// 11年	6,777	1.4	1.6	
// 45年	41,576	10.4	11.8		// 12年	8,785	1.8	1.8	
// 50年	43,483	10.1	10.8		// 13年	8,345	1.7	1.6	
// 55年	34,887	7.6	7.3		// 14年	7,029	1.4	1.4	
// 60年	27,949	5.9	5.6		// 15年	4,265	0.8	0.9	
平成 2年	14,569	3.0	3.3		// 16年	3,999	0.8	0.7	
// 3年	14,849	3.1	3.2		// 17年	746	0.1	-0.2	
// 4年	12,940	2.7	2.9		// 18年	2,034	0.4	0.1	
// 5年	10,894	2.2	2.5		// 19年	2,474	0.5	-0.1	
// 6年	14,050	2.9	2.9						

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

(3) 出生順位別にみた出生数の状況

出生順位別にみた出生数・百分率の推移を第2.4表及び図2.3に示す。平成19年の本県の出生数は46,393人であった。出生順位の構成割合をみると、最も多かったのは第1児であり21,695人（46.8%）であった。次いで第2児が16,848人（36.3%）、第3児が6,303人（13.6%）、第4児以上が1,547人（3.3%）であった。平成16年以降第3児の出生割合が増加している。

第2.4表 出生順位別にみた出生数・百分率の推移（福岡県）

年次	総数	第1児		第2児		第3児		第4児以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和35年	67,318	29,595	44.0	22,073	32.8	9,549	14.2	6,101	9.1	0
// 40年	68,854	31,864	46.3	26,079	37.9	8,187	11.9	2,722	4.0	2
// 45年	69,632	31,347	45.0	27,144	39.0	8,980	12.9	2,161	3.1	0
// 50年	71,059	32,565	45.8	28,344	39.9	8,401	11.8	1,749	2.5	0
// 55年	64,404	27,032	42.0	25,664	39.8	9,901	15.4	1,807	2.8	0
// 60年	58,837	23,855	40.5	22,899	38.9	10,029	17.0	2,054	3.5	0
平成 2年	48,164	20,286	42.1	17,665	36.7	8,338	17.3	1,875	3.9	0
// 7年	46,849	21,688	46.3	16,705	35.7	6,713	14.3	1,743	3.7	0
// 8年	47,948	22,259	46.4	17,432	36.4	6,644	13.9	1,613	3.4	0
// 9年	47,539	22,458	47.2	17,034	35.8	6,465	13.6	1,582	3.3	0
// 10年	47,811	22,809	47.7	17,354	36.3	6,166	12.9	1,482	3.1	0
// 11年	46,682	22,713	48.7	16,642	35.6	5,888	12.6	1,439	3.1	0
// 12年	47,290	22,851	48.3	16,982	35.9	6,042	12.8	1,415	3.0	0
// 13年	46,985	22,592	48.1	16,919	36.0	6,033	12.8	1,441	3.1	0
// 14年	46,443	22,657	48.8	16,653	35.9	5,687	12.2	1,446	3.1	0
// 15年	45,035	21,618	48.0	16,521	36.7	5,466	12.1	1,430	3.2	0
// 16年	45,143	21,372	47.3	16,787	37.2	5,524	12.2	1,460	3.2	0
// 17年	43,421	20,635	47.5	16,032	36.9	5,328	12.3	1,426	3.3	0
// 18年	45,304	21,301	47.0	16,504	36.4	5,912	13.0	1,587	3.5	0
// 19年	46,393	21,695	46.8	16,848	36.3	6,303	13.6	1,547	3.3	0

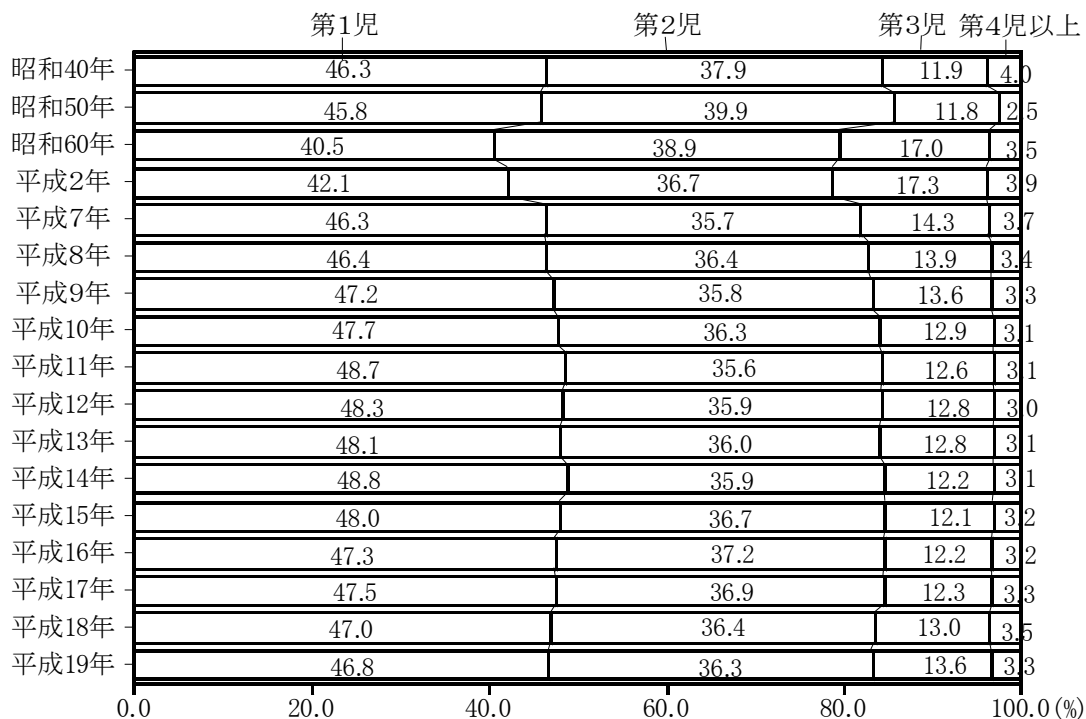


図2.3 出生順位別にみた出生割合の推移（福岡県）

(4) 母の年齢階級別にみた出生状況

母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移を第2.5表及び図2.4に示す。平成19年の本県の状況を見ると、最も多かったのは30～34歳で16,847人(36.3%)であった。次いで、25～29歳が14,368人(31.0%)、35～39歳が7,442人(16.0%)、20～24歳が5,970人(12.9%)、40歳以上が1,000人(2.2%)、19歳以下が766人(1.7%)であった。近年35～39歳の割合が徐々に増加し、40歳以上の母からの出生数が1,000人となった。

第2.5表 母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移（福岡県）

年次	総数	19歳以下		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40歳以上		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和35年	67,318	1,163	1.7	19,261	28.6	31,002	46.1	12,190	18.1	3,136	4.7	566	0.8	0
昭和40年	68,854	753	1.1	17,893	26.0	32,658	47.4	14,284	20.7	2,849	4.1	417	0.6	0
昭和45年	69,632	764	1.1	17,720	25.4	34,021	48.9	13,500	19.4	3,222	4.6	399	0.6	6
昭和50年	71,059	689	1.0	17,777	25.0	37,900	53.3	11,866	16.7	2,470	3.5	357	0.5	0
昭和55年	64,404	764	1.2	11,668	18.1	32,790	50.9	16,471	25.6	2,438	3.8	273	0.4	0
昭和60年	58,837	885	1.5	9,713	16.5	27,383	46.5	16,282	27.7	4,189	7.1	384	0.7	1
平成2年	48,164	783	1.6	7,445	15.5	20,469	42.5	14,719	30.6	4,150	8.6	598	1.2	0
平成7年	46,849	839	1.8	7,956	17.0	18,443	39.4	14,566	31.1	4,431	9.5	614	1.3	0
平成8年	47,948	856	1.8	8,140	17.0	19,194	40.0	14,624	30.5	4,491	9.4	643	1.3	0
平成9年	47,539	889	1.9	7,981	16.8	19,136	40.3	14,440	30.4	4,466	9.4	626	1.3	1
平成10年	47,811	938	2.0	7,824	16.4	18,880	39.5	14,853	31.1	4,712	9.9	604	1.3	0
平成11年	46,682	936	2.0	7,340	15.7	18,433	39.5	14,798	31.7	4,587	9.8	588	1.3	0
平成12年	47,290	972	2.1	7,052	14.9	18,437	39.0	15,043	31.8	5,148	10.9	637	1.3	1
平成13年	46,985	1,002	2.1	6,812	14.5	17,909	38.1	15,468	32.9	5,116	10.9	677	1.4	1
平成14年	46,443	1,021	2.2	6,772	14.6	17,078	36.8	15,700	33.8	5,141	11.1	730	1.6	1
平成15年	45,035	972	2.2	6,270	13.9	16,047	35.6	15,631	34.7	5,429	12.1	685	1.5	1
平成16年	45,143	927	2.1	5,993	13.3	15,267	33.8	16,338	36.2	5,856	13.0	762	1.7	0
平成17年	43,421	803	1.8	5,775	13.3	14,239	32.8	15,899	36.6	5,890	13.6	815	1.9	0
平成18年	45,304	787	1.7	6,001	13.2	14,316	31.6	16,543	36.5	6,832	15.1	825	1.8	0
平成19年	46,393	766	1.7	5,970	12.9	14,368	31.0	16,847	36.3	7,442	16.0	1,000	2.2	0

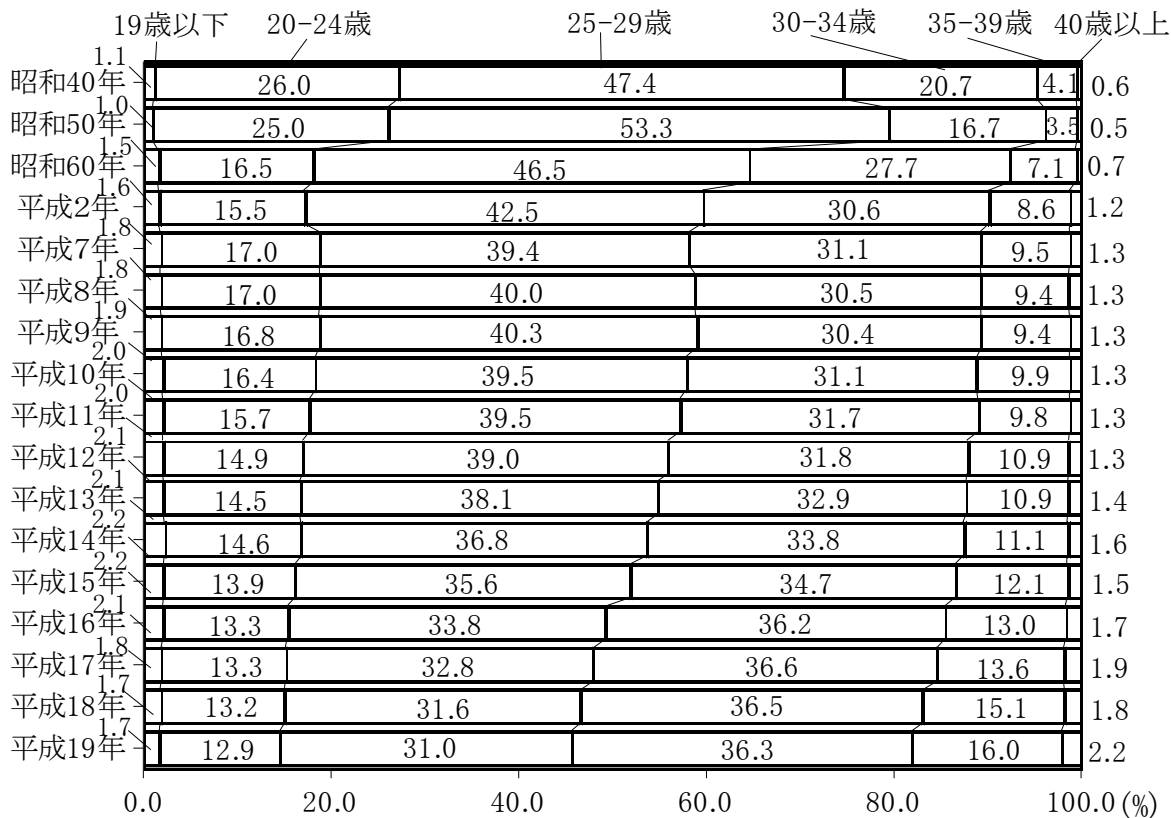


図2.4 母の年齢階級別に見た出生割合の推移（福岡県）

(5) 出生の場所

出生場所別に見た出生数・百分率の推移を第2.6表及び図2.5に示す。平成19年の本県の状況をみると、最も多かったのは診療所であり31,980人（68.9%）であった。次いで、病院が14,083人（30.4%）、助産所が241人（0.5%）、自宅が78人（0.2%）であった。

第2.6表 出生場所別に見た出生数・百分率の推移（福岡県）

年次	総数	病院		診療所		助産所		自宅		その他		不詳
	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	
昭和35年	67,318	13,128	19.5	11,573	17.2	5,333	7.9	30,789	45.7	6,495	9.6	0
昭和40年	68,854	16,672	24.2	31,028	45.1	9,553	13.9	9,543	13.9	2,058	3.0	0
昭和45年	69,632	18,838	27.1	39,966	57.4	8,489	12.2	1,905	2.7	434	0.6	0
昭和50年	71,059	22,165	31.2	42,689	60.1	5,516	7.8	511	0.7	178	0.3	0
昭和55年	64,404	22,134	34.4	39,233	60.9	2,803	4.4	147	0.2	87	0.1	0
昭和60年	58,837	24,446	41.5	32,863	55.9	1,398	2.4	100	0.2	30	0.1	0
平成2年	48,164	17,976	37.3	29,633	61.5	509	1.1	38	0.1	8	0.0	0
平成7年	46,849	16,612	35.5	29,697	63.4	477	1.0	52	0.1	11	0.0	0
平成8年	47,948	16,770	35.0	30,634	63.9	497	1.0	39	0.1	8	0.0	0
平成9年	47,539	16,547	34.8	30,461	64.1	491	1.0	38	0.1	2	0.0	0
平成10年	47,811	16,388	34.3	30,960	64.8	400	0.8	50	0.1	13	0.0	0
平成11年	46,682	15,653	33.5	30,629	65.6	344	0.7	44	0.1	12	0.0	0
平成12年	47,290	15,989	33.8	30,903	65.3	335	0.7	53	0.1	10	0.0	0
平成13年	46,985	15,351	32.7	31,258	66.5	327	0.7	41	0.1	8	0.0	0
平成14年	46,443	14,727	31.7	31,362	67.5	281	0.6	62	0.1	11	0.0	0
平成15年	45,035	13,263	29.5	31,441	69.8	250	0.6	66	0.1	15	0.0	0
平成16年	45,143	13,328	29.5	31,455	69.7	283	0.6	66	0.1	11	0.0	0
平成17年	43,421	12,698	29.2	30,373	70.0	263	0.6	68	0.2	19	0.0	0
平成18年	45,304	13,087	28.9	31,846	70.3	302	0.7	55	0.1	14	0.0	0
平成19年	46,393	14,083	30.4	31,980	68.9	241	0.5	78	0.2	11	0.0	0

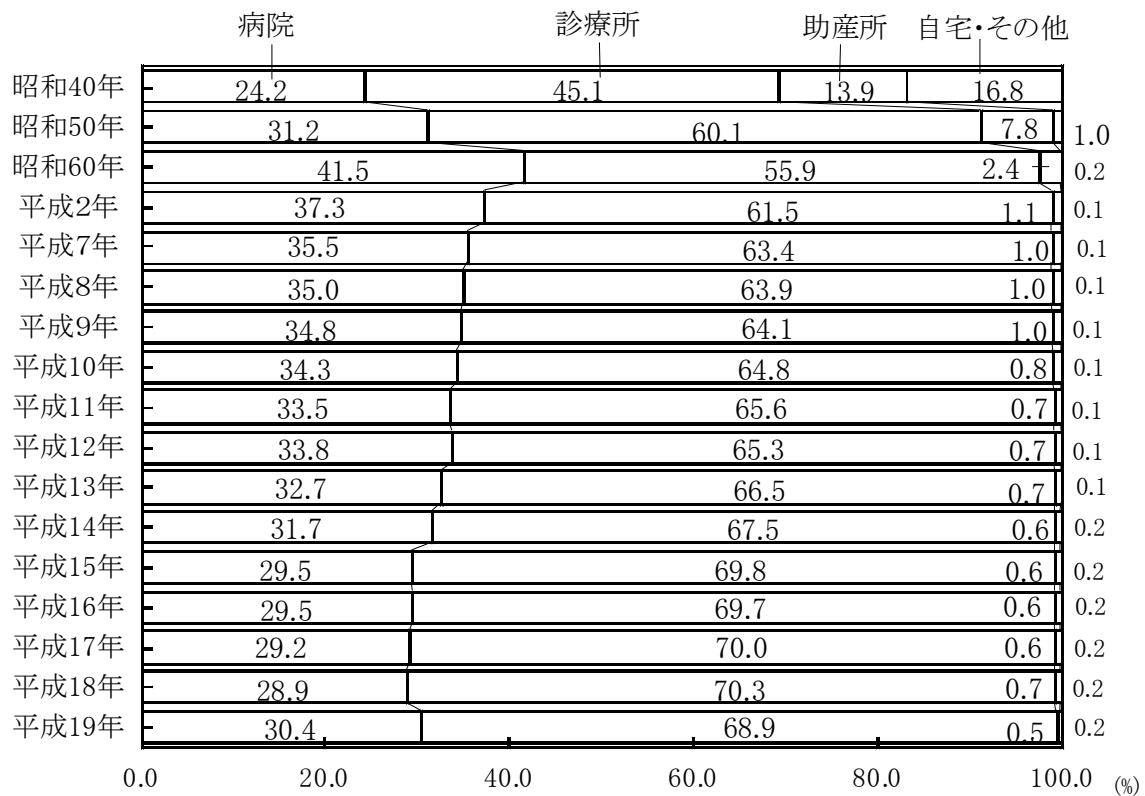


図2.5 出生場所別にみた出生割合の推移（福岡県）

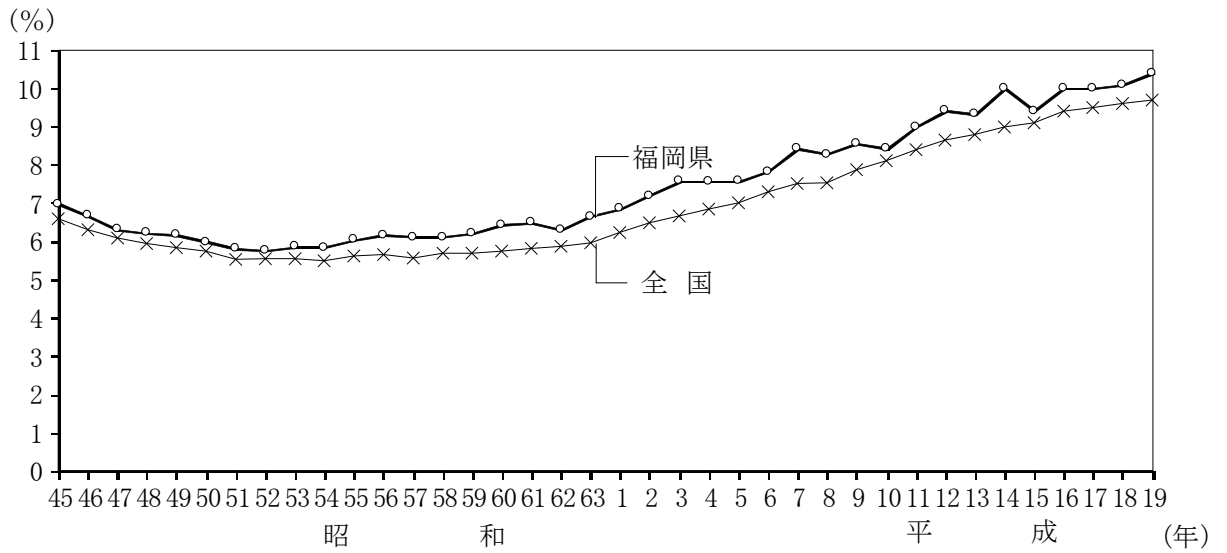
(6) 低体重児出生数

出生数に対する低体重児の構成割合の推移を第2.7表及び図2.6に示す。低体重児の構成割合は昭和50年代を底として漸増しており、平成19年の本県の低体重児出生数は4,838人、全出生数に対する低体重児の構成割合は10.4%であった。本県の低体重児出生割合を全国と比べると常に上回って推移している。

第2.7表 低体重児出生数・割合の推移

年次	低体重児出生数 (福岡県)	低体重児出生割合 (%)	
		福岡県	全国
昭和35年	5,892	8.8	—
昭和40年	5,628	8.2	—
昭和45年	4,857	7.0	6.6
昭和50年	4,249	6.0	5.8
昭和55年	3,894	6.1	5.6
昭和60年	3,783	6.4	5.7
平成2年	3,465	7.2	6.5
平成7年	3,952	8.4	7.5
平成8年	3,965	8.3	7.5
平成9年	4,069	8.6	7.9
平成10年	4,032	8.4	8.1
平成11年	4,196	9.0	8.4
平成12年	4,453	9.4	8.6
平成13年	4,390	9.3	8.8
平成14年	4,646	10.0	9.0
平成15年	4,234	9.4	9.1
平成16年	4,515	10.0	9.4
平成17年	4,354	10.0	9.5
平成18年	4,567	10.1	9.6
平成19年	4,838	10.4	9.7

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。
2) 平成6年までは2,500g以下の出生数、平成7年以降は2,500g未満の出生数である。



注:平成6年までは2500g以下の低体重児割合、平成7年以降は2500g未満の低体重児割合。

図2.6 出生数に対する低体重児の構成割合の推移

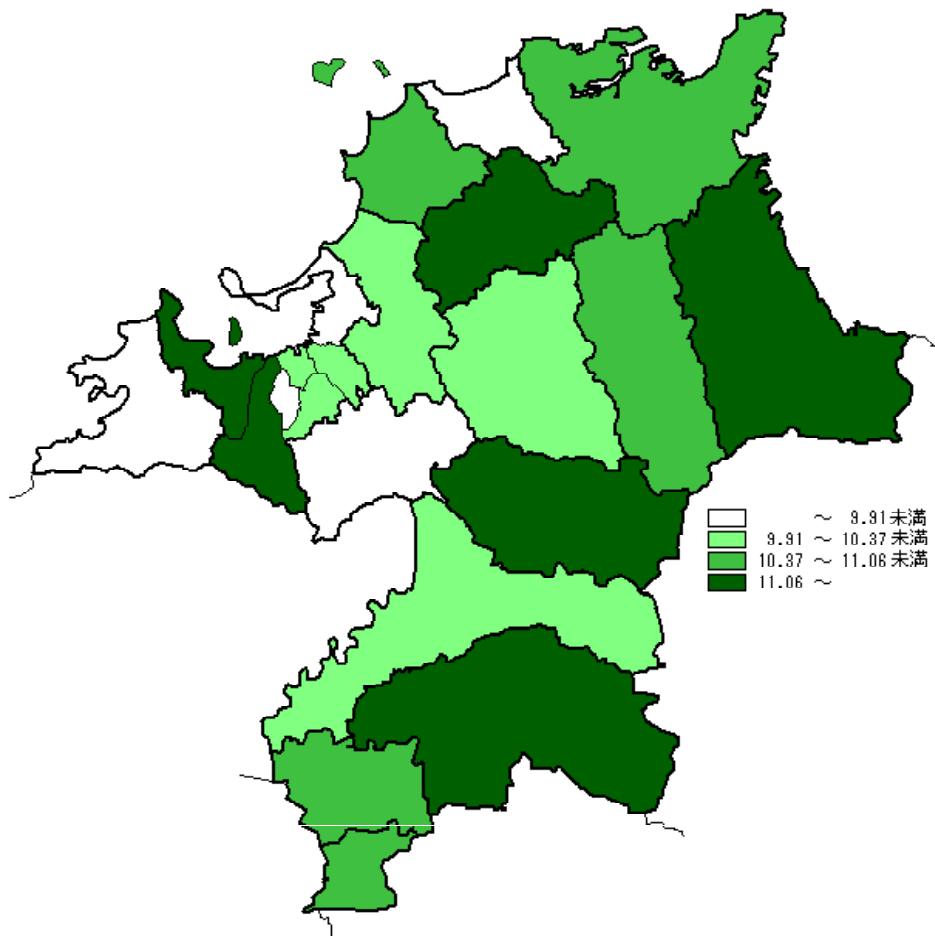


図2.7 保健所管内別に見た出生数に対する低体重児の構成割合（平成19年・福岡県）

3 死 亡

(1) 死亡の動向

死亡数及び死亡率（人口千対）の推移を第3.1表に示す。平成19年の本県の死亡数は43,919人、粗死亡率は8.8であった。本県の粗死亡率の年次推移は全国の傾向とほぼ同様に推移し、近年高齢化の影響により、緩やかな上昇を示している。粗死亡率は高齢者が多いほど高くなる傾向にあるので、年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、年々減少しており、死亡の状況は改善されてきている。

第3.1表 死亡数・死亡率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県			全 国		
	死亡数	粗死亡率	年齢調整死亡率	死亡数	粗死亡率	年齢調整死亡率
昭和25年	36,874	10.4		904,876	10.9	16.3
" 30年	29,078	7.5		693,523	7.8	12.7
" 35年	28,770	7.2		706,599	7.6	12.3
" 40年	28,124	7.1		700,438	7.1	11.2
" 45年	28,056	7.0		712,962	6.9	10.1
" 50年	27,576	6.5		702,275	6.3	8.4
" 55年	29,517	6.5		722,801	6.2	7.3
" 60年	30,888	6.5		752,283	6.3	6.3
平成 2年	33,595	7.0	5.7	820,305	6.7	5.6
" 3年	33,973	7.1		829,797	6.7	5.5
" 4年	34,639	7.2		856,643	6.9	5.4
" 5年	35,875	7.4		878,532	7.1	5.4
" 6年	34,902	7.2		875,933	7.1	5.2
" 7年	37,158	7.6	5.3	922,139	7.4	5.3
" 8年	35,798	7.3	5.0	896,211	7.2	4.9
" 9年	36,884	7.5	4.9	913,402	7.3	4.8
" 10年	38,018	7.7	4.9	936,484	7.5	4.8
" 11年	39,905	8.0	5.0	982,031	7.8	4.8
" 12年	38,505	7.7	4.6	961,653	7.7	4.6
" 13年	38,640	7.7	4.5	970,331	7.7	4.4
" 14年	39,414	7.9	4.4	982,379	7.8	4.3
" 15年	40,770	8.1	4.4	1,014,951	8.0	4.3
" 16年	41,144	8.2	4.3	1,028,602	8.2	4.2
" 17年	42,675	8.5	4.3	1,083,796	8.6	4.3
" 18年	43,270	8.6	4.2	1,084,450	8.6	4.1
" 19年	43,919	8.8	4.1	1,108,334	8.8	4.1

- 注 1) 年齢階級別福岡県推計日本人人口（県調査統計課）を人口動態統計で用いる都道府県別日本人人口で補正した。
 2) 年齢調整死亡率は福岡県保健環境研究所の計算による。
 3) 空欄は福岡県年齢階級別日本人人口が入手できないため計算から除外した。
 4) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成19年の本県の市区町村別にみた死亡率を第3.2表及び図3.1に示す。本県で最も死亡率が低かったのは那珂川町5.3であり、次いで、春日市5.4、大野城市5.5であった。

第3.2表 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成19年・福岡県）

市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率	市区町村名	死亡率
那珂川町	5.3	小郡市	8.1	八女市	10.7	築上町	12.7
春日市	5.4	須恵町	8.3	二丈町	10.7	糸田町	12.9
大野城市	5.5	篠栗町	8.4	中間市	10.8	黒木町	12.9
中央区	5.6	宗像市	8.4	広川町	10.8	八幡東区	12.9
粕屋町	5.8	芦屋町	8.6	若松区	10.9	大牟田市	13.0
城南区	6.0	筑後市	8.6	柳川市	10.9	桂川町	13.0
早良区	6.4	苅田町	8.6	直方市	11.0	豊前市	13.3
博多区	6.5	八幡西区	8.8	大木町	11.0	立花町	13.3
東区	6.6	久留米市	8.9	鞍手町	11.0	宮若市	13.7
西区	6.8	福津市	9.5	吉富町	11.5	嘉麻市	14.0
南区	6.8	行橋市	9.6	上毛町	11.6	川崎町	15.0
筑紫野市	6.9	大刀洗町	9.8	岡垣町	11.6	東峰村	15.2
宇美町	7.2	戸畑区	9.9	門司区	12.3	小竹町	15.7
新宮町	7.2	水巻町	10.0	みやま市	12.3	大任町	15.7
前原市	7.2	久山町	10.0	香春町	12.3	赤村	16.2
古賀市	7.3	大川市	10.1	朝倉市	12.4	矢部村	17.2
小倉南区	7.4	筑前町	10.1	うきは市	12.4	星野村	17.7
志免町	7.5	志摩町	10.2	福智町	12.5	添田町	17.8
遠賀町	7.5	小倉北区	10.5	みやこ町	12.5		
太宰府市	7.8	飯塚市	10.6	田川市	12.6		

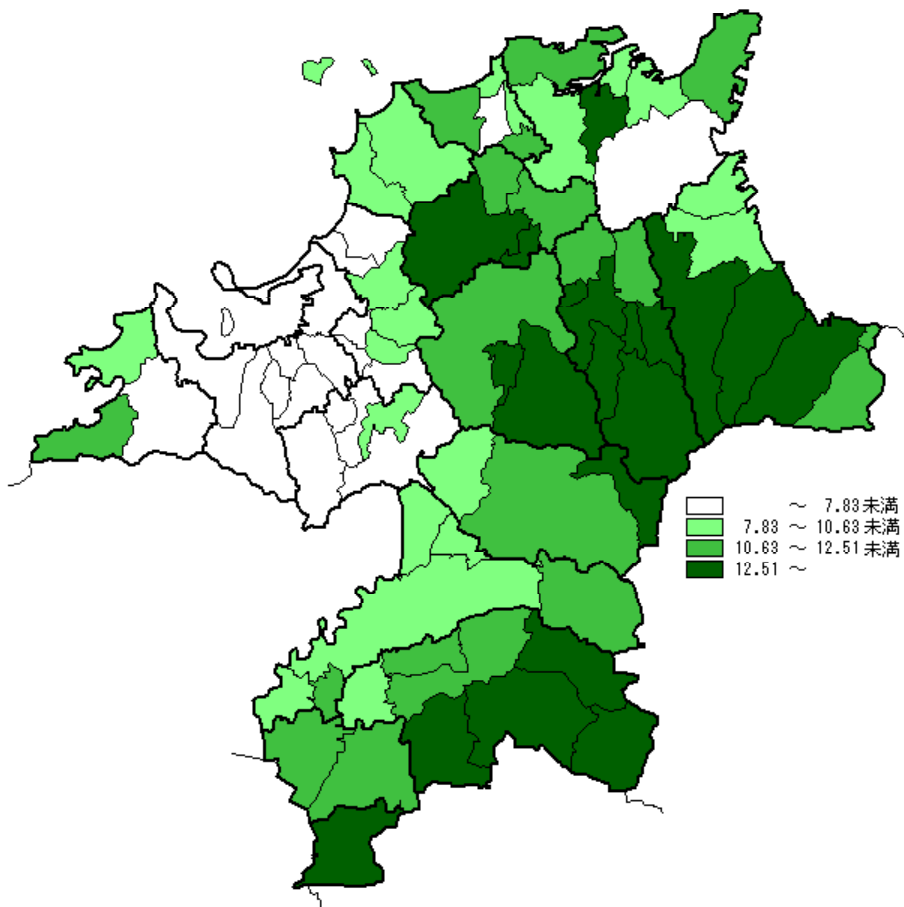


図3.1 市区町村別にみた死亡率（人口千対）（平成19年・福岡県）

(2) 主要死因

昭和45年から平成19年までの本県の主要死因別にみた粗死亡率を図3.2に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.3に示す。粗死亡率では人口の高齢化の影響で悪性新生物、心疾患、肺炎、腎不全、糖尿病、老衰、慢性閉塞性肺疾患等の増加傾向がみられたが、年齢構成を補正した年齢調整死亡率では、悪性新生物、心疾患は減少傾向を示している。老衰は平成17年以降は年齢調整死亡率においても増加に転じている。脳血管疾患は粗死亡率、年齢調整死亡率とも減少傾向が続いている。

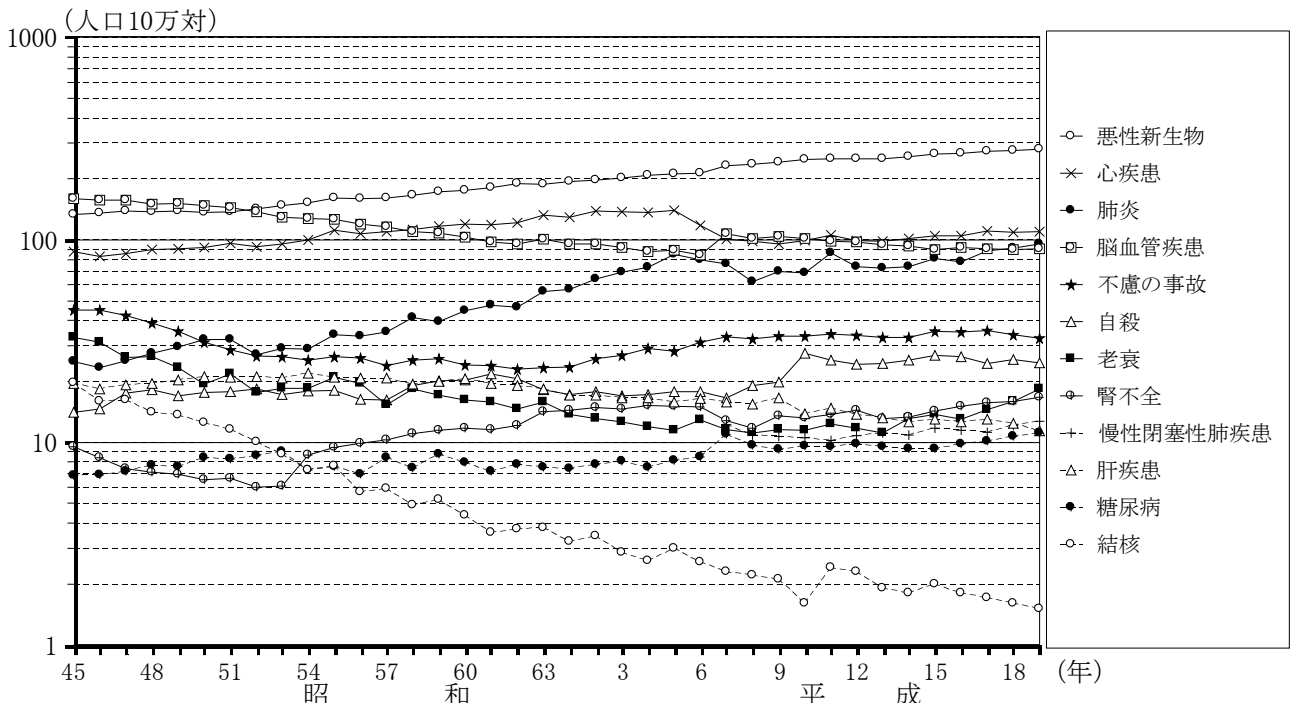


図3.2 主要死因別にみた粗死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

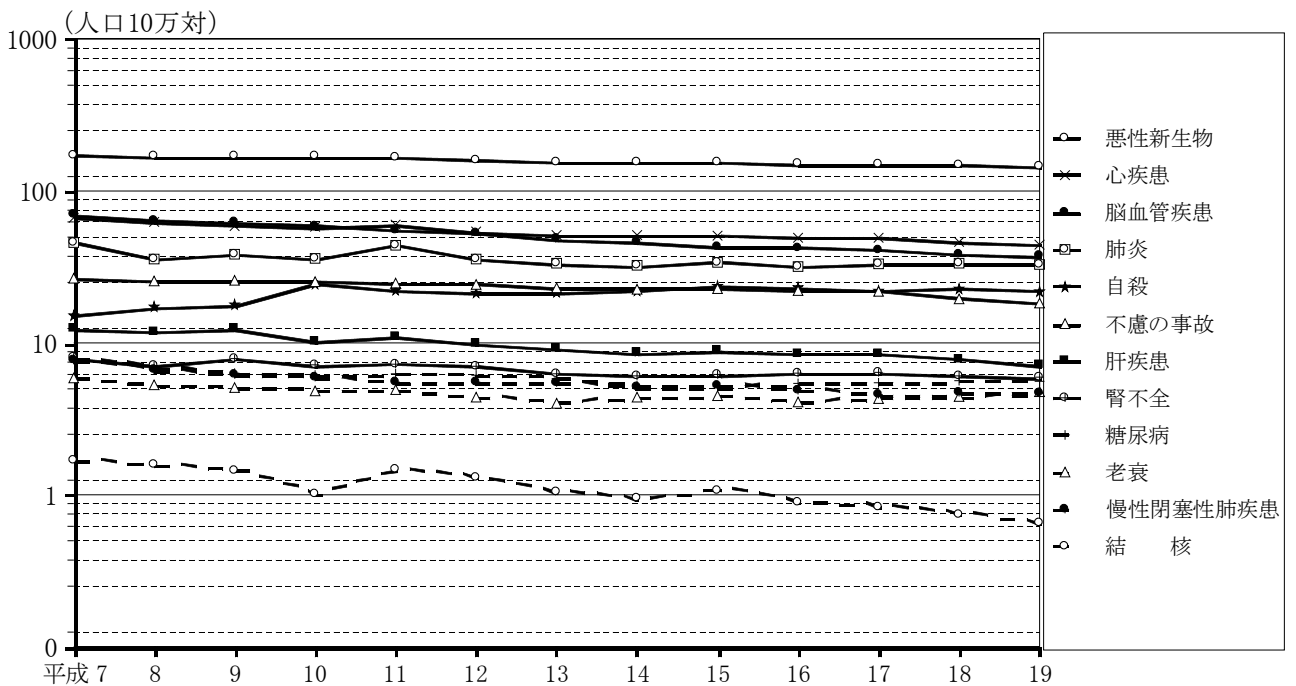


図3.3 主要死因別にみた年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

死因別順位別にみた死亡数及び死亡率を第3.3表に示す。平成19年の本県の死因別順位をみると、1位は悪性新生物で14,130人（人口10万対281.7）、2位は心疾患で5,524人（110.1）、3位は肺炎4,799人（95.7）、4位は脳血管疾患4,551人（90.7）だった。老衰919人（18.3）及び慢性閉塞性肺疾患636人（12.7）が昨年の順位からそれぞれ一つ上がった。

第3.3表 死因・順位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

上段：死亡数（人）

下段：死亡率（人口10万対）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
平成10年	悪性新生物 12,386 249.6	脳血管疾患 5,047 101.7	心疾患 4,936 99.5	肺炎 3,408 68.7	不慮の事故 1,670 33.6	自殺 1,369 27.6	肝疾患 692 13.9	腎不全 655 13.2	老衰 571 11.5	慢性閉塞性肺疾患 520 10.5
平成11年	悪性新生物 12,471 250.7	心疾患 5,254 105.6	脳血管疾患 4,916 98.8	肺炎 4,286 86.2	不慮の事故 1,702 34.2	自殺 1,265 25.4	肝疾患 738 14.8	腎不全 687 13.8	老衰 613 12.3	慢性閉塞性肺疾患 505 10.2
平成12年	悪性新生物 12,503 250.8	心疾患 4,941 99.1	脳血管疾患 4,863 97.6	肺炎 3,666 73.5	不慮の事故 1,687 33.8	自殺 1,213 24.3	腎不全 717 14.4	肝疾患 688 13.8	老衰 586 11.8	慢性閉塞性肺疾患 536 10.8
平成13年	悪性新生物 12,531 250.6	心疾患 4,917 98.3	脳血管疾患 4,738 94.7	肺炎 3,635 72.7	不慮の事故 1,656 33.1	自殺 1,230 24.6	肝疾患 662 13.2	腎不全 655 13.1	老衰 557 11.1	慢性閉塞性肺疾患 554 11.1
平成14年	悪性新生物 12,953 258.5	心疾患 5,093 101.6	脳血管疾患 4,665 93.1	肺炎 3,689 73.6	不慮の事故 1,649 32.9	自殺 1,280 25.5	腎不全 664 13.3	老衰 657 13.1	肝疾患 632 12.6	慢性閉塞性肺疾患 547 10.9
平成15年	悪性新生物 13,343 265.9	心疾患 5,274 105.1	脳血管疾患 4,493 89.5	肺炎 4,073 81.2	不慮の事故 1,774 35.4	自殺 1,352 26.9	腎不全 719 14.3	老衰 685 13.7	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 590 11.8
平成16年	悪性新生物 13,415 267.0	心疾患 5,285 105.2	脳血管疾患 4,607 91.7	肺炎 3,926 78.1	不慮の事故 1,768 35.2	自殺 1,326 26.4	腎不全 759 15.1	老衰 654 13.0	肝疾患 634 12.6	慢性閉塞性肺疾患 577 11.5
平成17年	悪性新生物 13,700 273.4	心疾患 5,545 110.7	脳血管疾患 4,544 90.7	肺炎 4,408 88.0	不慮の事故 1,784 35.6	自殺 1,235 24.6	腎不全 789 15.7	老衰 726 14.5	肝疾患 650 13.0	慢性閉塞性肺疾患 561 11.2
平成18年	悪性新生物 13,903 277.2	心疾患 5,486 109.4	肺炎 4,557 90.9	脳血管疾患 4,503 89.8	不慮の事故 1,699 33.9	自殺 1,291 25.7	腎不全 800 16.0	老衰 796 15.9	肝疾患 621 12.4	慢性閉塞性肺疾患 608 12.1
平成19年	悪性新生物 14,130 281.7	心疾患 5,524 110.1	肺炎 4,799 95.7	脳血管疾患 4,551 90.7	不慮の事故 1,644 32.8	自殺 1,241 24.7	老衰 919 18.3	腎不全 836 16.7	慢性閉塞性肺疾患 636 12.7	肝疾患 571 11.4

注：ICD-10による分類方法である。

死亡数に占める各主要死因の構成割合を図3.4に示す。平成19年に本県で最も多かったのは悪性新生物であり32.2%であった。次いで心疾患が12.6%、肺炎が10.9%であった。

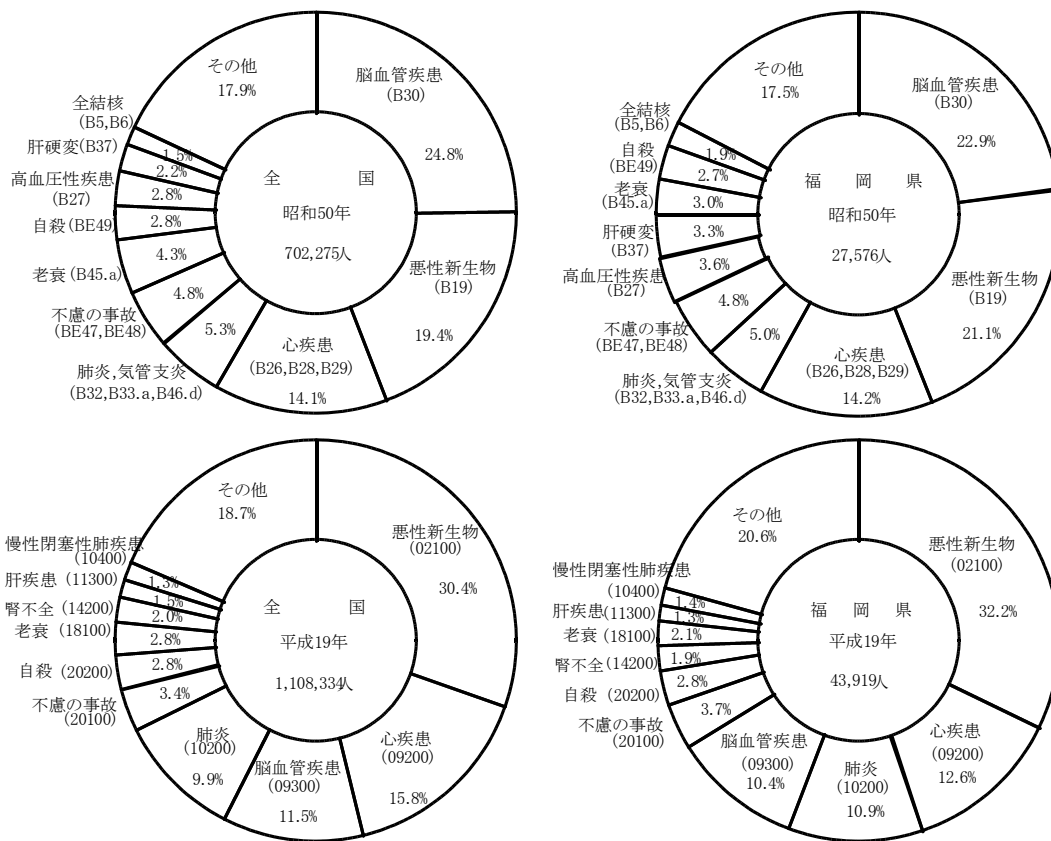


図3.4 死亡数に占める各主要死因の構成割合

性別・主要死因別にみた死亡数、死亡率及び死亡率性を第3.4表に示す。平成19年の本県の全死因死亡数及び死亡率をみると、男が22,780人（人口10万対959.6）、女が21,139人（800.1）であった。男女別にみると、男で最も多かったのは悪性新生物であり8,212人（345.9）であった。次いで、肺炎が2,474人（104.2）、心疾患が2,439人（102.7）、脳血管疾患が2,166人（91.2）、自殺が911人（38.4）であった。また、女で最も多かったのは悪性新生物であり5,918人（224.0）であった。次いで心疾患が3,085人（116.8）、脳血管疾患が2,385人（90.3）、肺炎が2,325人（88.0）、不慮の事故が764人（28.9）であった。自殺及び慢性閉塞性肺疾患は特に男に多い死因である。

第3.4表 性別・主要死因別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比（平成19年・福岡県）

死因	男		女		死亡率性比
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
総数	22,780	959.6	21,139	800.1	1.20
悪性新生物	8,212	345.9	5,918	224.0	1.54
心疾患	2,439	102.7	3,085	116.8	0.88
肺炎	2,474	104.2	2,325	88.0	1.18
脳血管疾患	2,166	91.2	2,385	90.3	1.01
自殺	911	38.4	330	12.5	3.07
不慮の事故	880	37.1	764	28.9	1.28
老衰	201	8.5	718	27.2	0.31
腎不全	339	14.3	497	18.8	0.76
慢性閉塞性肺疾患	453	19.1	183	6.9	2.75
肝疾患	355	15.0	216	8.2	1.83

注：人口は「平成19年10月1日現在、都道府県男女別日本人人口」（総務省）使用（男：2,374,000人、女：2,642,000人）

(3) 三大死因

1) 悪性新生物

悪性新生物の主な部位別死亡数を第3.5表に示す。平成19年の本県の悪性新生物による死亡数は、前年と比較して227人増加し、14,130人であった。また、死亡率（人口10万対）は前年と比較して4.5ポイント増加し、281.7であった。

3.5表 主要部位別にみた悪性新生物の死亡数の推移（福岡県）

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸・S状移行部	肝及び肝内胆管	胆のう及び他の胆道	膵	気管、気管支及び肺	乳房	子宮	卵巣	前立腺	白血病	その他
昭和55年	7,287	232	2,097	350	267	893	236	343	1,004	182	287	84	78	202	1,032
〃 60年	8,350	205	1,878	511	316	1,300	433	420	1,308	213	240	102	88	192	1,144
平成 2年	9,474	258	1,751	628	379	1,637	486	538	1,610	245	201	122	124	245	1,250
〃 7年	11,414	287	1,901	799	425	2,008	572	664	2,020	310	226	146	203	292	1,561
〃 8年	11,615	372	1,952	919	394	1,904	602	643	2,054	332	207	144	219	304	1,569
〃 9年	11,927	352	1,978	926	429	2,049	554	644	2,111	367	216	147	251	314	1,589
〃 10年	12,386	336	1,999	933	465	2,130	631	658	2,183	364	223	163	247	323	1,731
〃 11年	12,471	363	1,912	953	434	2,057	624	756	2,277	383	235	154	267	332	1,724
〃 12年	12,503	386	1,916	980	413	2,020	590	708	2,275	389	238	140	304	335	1,809
〃 13年	12,531	378	1,832	969	459	1,991	638	751	2,334	376	250	116	313	334	1,790
〃 14年	12,953	423	1,820	996	498	2,074	656	807	2,329	401	243	129	329	346	1,902
〃 15年	13,343	407	1,941	1,094	515	2,158	634	806	2,369	429	218	156	356	333	1,927
〃 16年	13,415	420	1,896	1,071	515	2,017	644	883	2,519	418	231	184	329	331	1,957
〃 17年	13,700	402	1,858	1,140	510	2,079	632	813	2,637	495	206	167	326	359	2,076
〃 18年	13,903	417	1,959	1,148	489	2,024	704	877	2,551	492	261	188	372	349	2,072
〃 19年	14,130	411	1,905	1,108	501	2,017	660	1,020	2,742	489	238	173	363	402	2,101

注：1)平成6年までは、厚生省が作成したICD-9とICD-10の新旧比較表をもとに、ICD-10の分類へ変換して集計した。
2)平成7年からはICD-10の分類区分に基づき集計した。

本県の悪性新生物の性・部位別死亡割合を図3.5に示す。平成19年の本県の悪性新生物による死亡数は、男が8,212人、女が5,918人であった。また、構成割合をみると、男女ともに気管・気管支及び肺、肝及び肝内胆管、胃が多く、これら3部位の悪性新生物による死亡数が全体の悪性新生物死亡数に占める割合は、男性が53.4%、女性が38.5%であった。

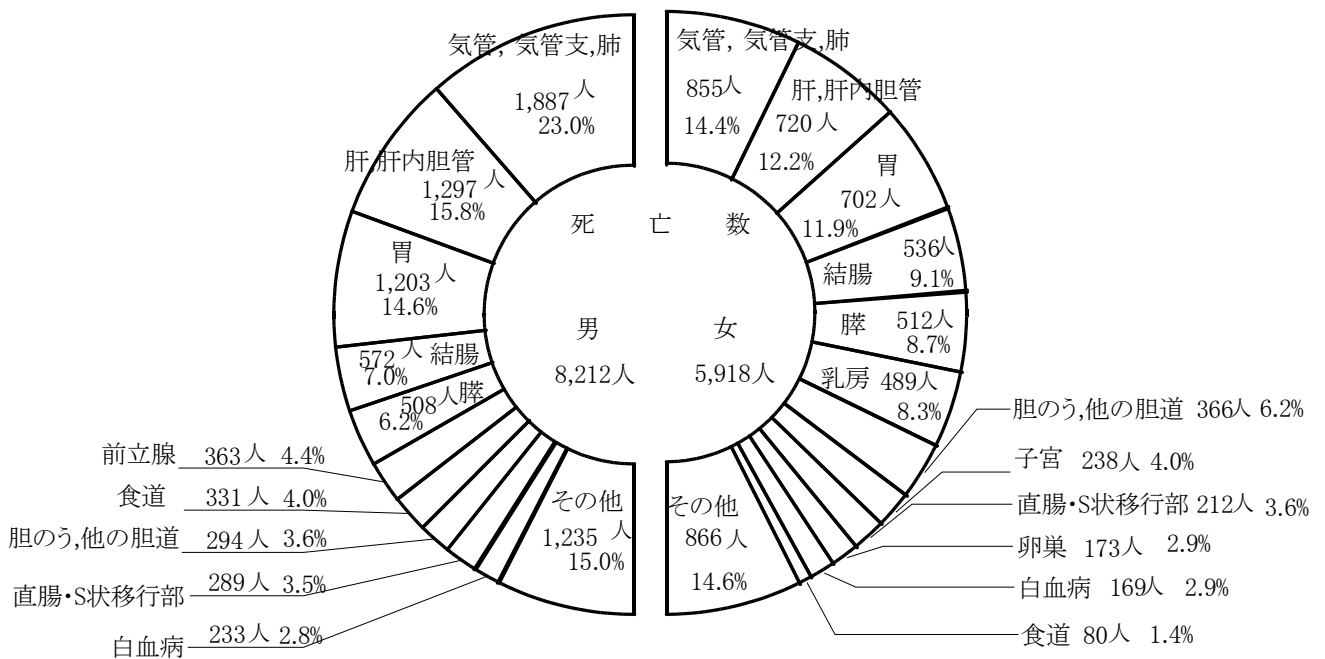


図3.5 性・部位別にみた悪性新生物の死亡数・構成割合（平成19年・福岡県）

本県の昭和55年から平成19年までの悪性新生物の部位別粗死亡率（人口10万対）を図3.6に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.7に示す。粗死亡率では増加傾向を示す部位が多いが、これは人口の高齢化の影響である。年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、気管、気管支及び肺、肝及び管内胆管、胃などの部位は減少傾向にある。ただし、気管、気管支及び肺や胃の減少傾向が鈍化している。

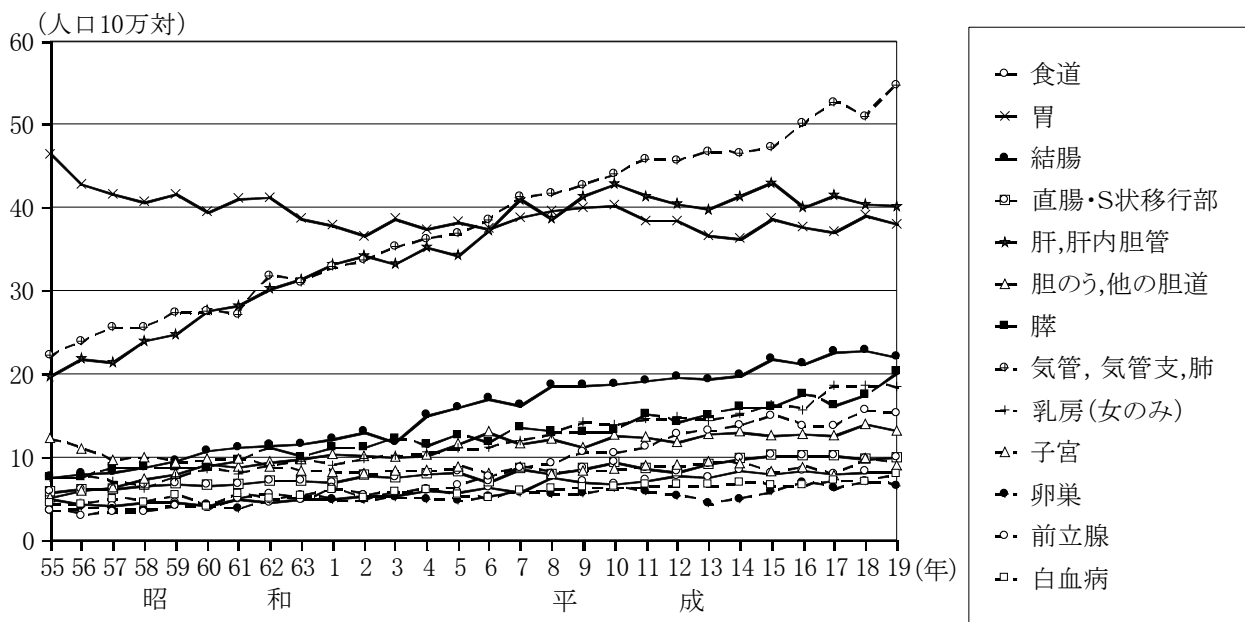


図3.6 主要部位別にみた悪性新生物の死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

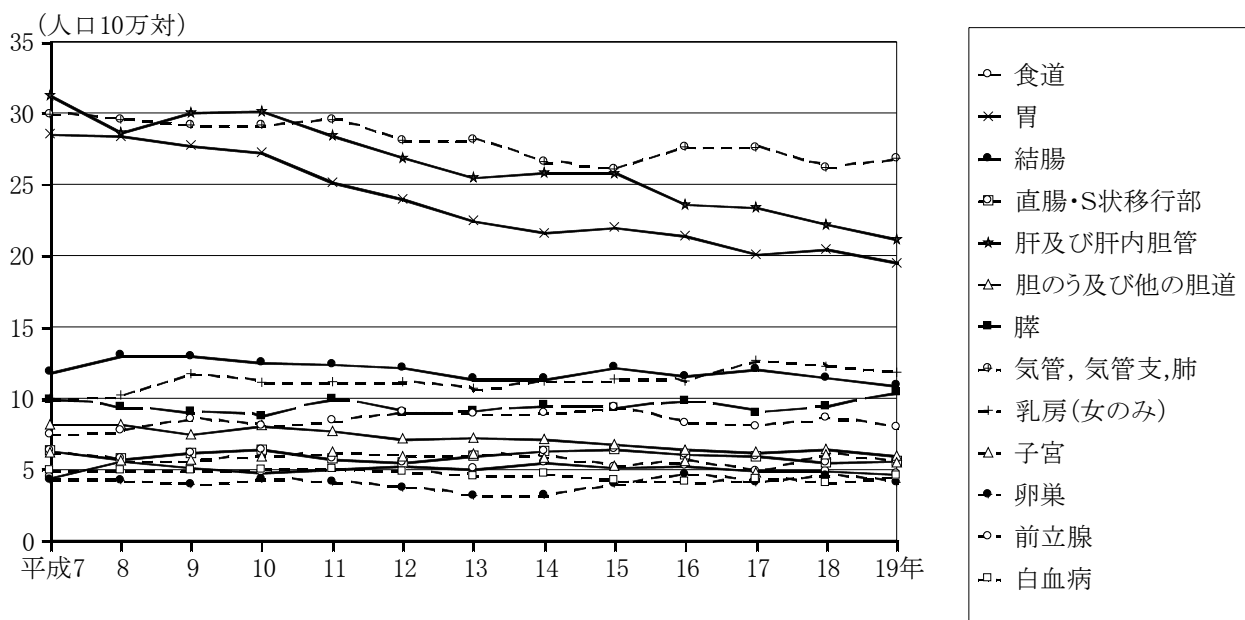


図3.7 主要部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（福岡県）

2) 心疾患

心疾患の死因別割合を図3.8に示す。平成19年の本県の心疾患による死亡数は5,524人で前年の5,486人に比べ38人増加した。また、心疾患死亡数の構成割合をみると、最も多かったのは心不全であり1,788人(32.4%)であった。次いで急性心筋梗塞が1,538人(27.8%)、その他の虚血性心疾患が870人(15.7%)であった。

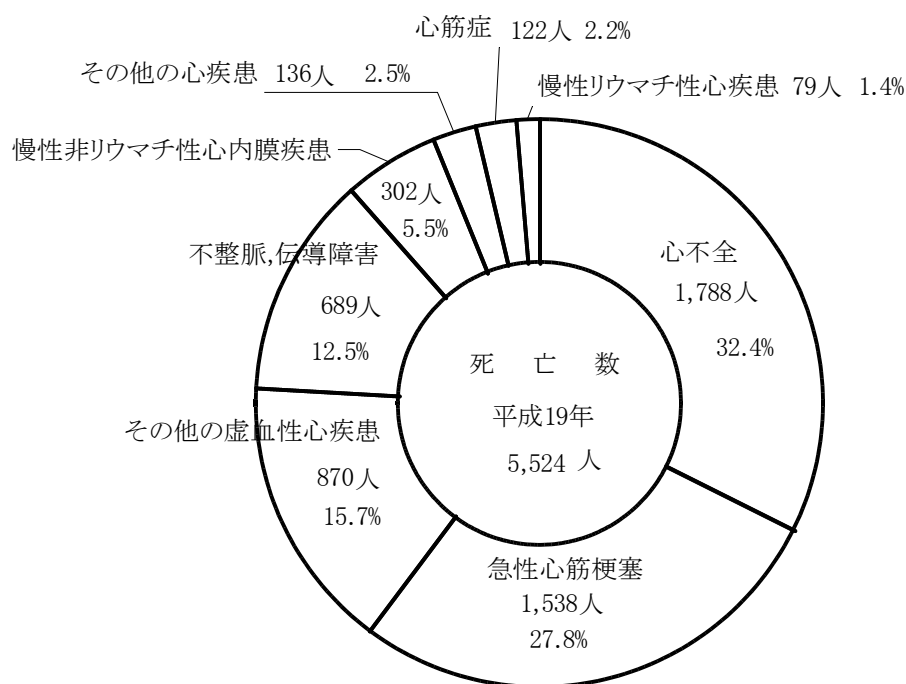


図3.8 心疾患の死因別にみた割合(平成19年・福岡県)

3) 脳血管疾患

脳血管疾患の死因別割合を図3.9に示す。平成19年の本県の脳血管疾患による死亡数は4,551人で前年の4,503人に比べ48人増加した。また、脳血管疾患の構成割合をみると、最も多かったのは脳梗塞であり2,709人(59.5%)であった。次いで脳内出血が1,190人(26.1%)、くも膜下出血が503人(11.1%)、その他の脳血管疾患が149人(3.3%)であった。

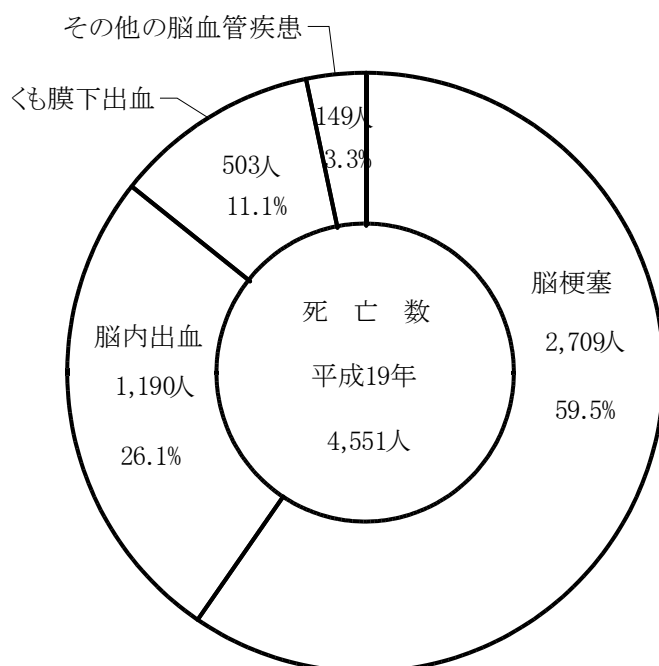


図3.9 脳血管疾患の死因別にみた割合(平成19年・福岡県)

(4) 乳児死亡

乳児死亡を死亡統計でとりあげて観察の対象とするのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、乳児死亡率はその地域の衛生状態の良否、ひいては経済や教育を含めた社会状態を反映する指標の一つと考えられるからである。

乳児死亡数（率）の推移を第3.6表に示す。平成19年の本県の乳児死亡数は110人、乳児死亡率は2.4であった。

第3.6表 乳児死亡数・乳児死亡率（出生千対）の推移

年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率		年次	乳児死亡数 (福岡県)	乳児死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和22年	8,748	80.8	76.7	// 7年	230	4.9	4.3
// 25年	5,715	52.4	60.1	// 8年	189	3.9	3.8
// 30年	2,539	33.2	39.8	// 9年	190	4.0	3.7
// 35年	1,828	27.2	30.7	// 10年	190	4.0	3.6
// 40年	1,154	16.8	18.5	// 11年	173	3.7	3.4
// 45年	869	12.5	13.1	// 12年	162	3.4	3.2
// 50年	568	8.0	10.0	// 13年	134	2.9	3.1
// 55年	442	6.9	7.5	// 14年	162	3.5	3.0
// 60年	324	5.5	5.5	// 15年	156	3.5	3.0
平成 2年	223	4.6	4.6	// 16年	134	3.0	2.8
// 3年	245	5.0	4.4	// 17年	109	2.5	2.8
// 4年	227	4.8	4.5	// 18年	90	2.0	2.6
// 5年	217	4.6	4.3	// 19年	110	2.4	2.6
// 6年	203	4.1	4.2				

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

死因別にみた乳児死亡数と構成割合を図3.10に示す。本県で最も多かったのは先天奇形、変形、染色体異常であり42人（38.2%）であった。次いで周産期の呼吸障害、心血管障害が13人（11.8%）、乳幼児突然死症候群が12人（10.9%）であった。

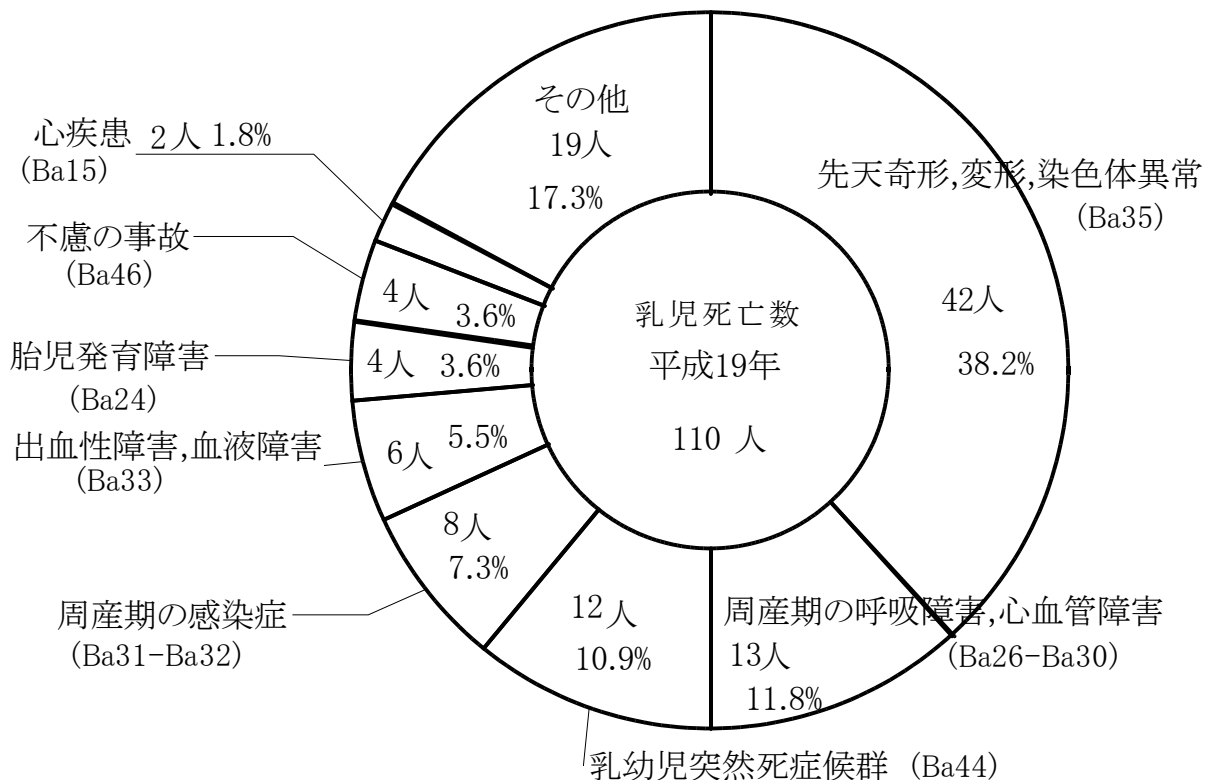


図3.10 乳児死亡の死因別割合（平成19年・福岡県）

平成19年の本県の保健所管内別にみた乳児死亡率を図3.11に示す。率が低かったのは嘉穂0.63、福岡市東区0.72、福岡市城南区0.84であった。

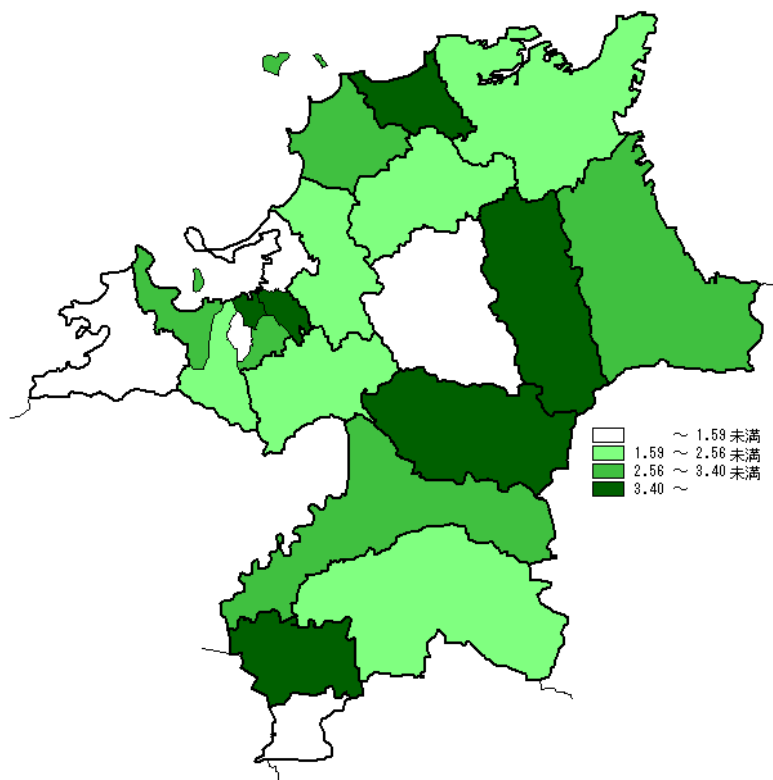


図3.11 保健所管内別にみた乳児死亡率（出生千対）（平成19年・福岡県）

(5) 周産期死亡

死亡統計で周産期死亡をとりあげて観察の対象とするのは、妊娠22週以後の死産と早期新生児死亡がともに母体の健康状態に強く影響される共通性が認められるからであり、1950年以降WHOによって提唱されたものである。

周産期死亡数及び周産期死亡率の推移を第3.7表に示す。平成19年の本県の周産期死亡数は202人、周産期死亡率（出産千対）は4.3であった。

第3.7表 周産期死亡数・周産期死亡率の推移

年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率		年次	周産期死亡数 (福岡県)	周産期死亡率	
		福岡県	全国			福岡県	全国
昭和35年	3,161	47.0	41.4	〃 8年	327	6.8	6.7
〃 40年	2,315	33.6	30.1	〃 9年	257	5.4	6.4
〃 45年	1,654	23.8	21.7	〃 10年	325	6.8	6.2
〃 50年	1,085	15.3	16.0	〃 11年	270	5.8	6.0
〃 55年	687	10.7	11.7	〃 12年	251	5.3	5.8
〃 60年	443	7.5	8.0	〃 13年	247	5.2	5.5
平成 2年	292	6.1	5.7	〃 14年	241	5.2	5.5
〃 3年	272	5.6	5.3	〃 15年	240	5.3	5.3
〃 4年	253	5.3	5.2	〃 16年	212	4.7	5.0
〃 5年	219	4.7	5.0	〃 17年	209	4.8	4.8
〃 6年	214	4.4	5.0	〃 18年	177	3.9	4.7
〃 7年	295	6.3	7.0	〃 19年	202	4.3	4.5

注：1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 平成6年までの周産期死亡数は、妊娠満28週以後の死産と早期新生児死亡の合計であり、平成7年からは妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。

3) 平成6年までの周産期死亡率は出産千対（出生数）であり、平成7年からは出産千対（出生数＋妊娠満22週以後の死産）である。

平成19年の本県の保健所管内別の周産期死亡率を図3.12に示す。大牟田市は周産期死亡数0だった。次いで、周産期死亡率が低かったのは福岡市南区2.11、宗像2.56、福岡市博多区2.94、福岡市東区3.23の順であった。

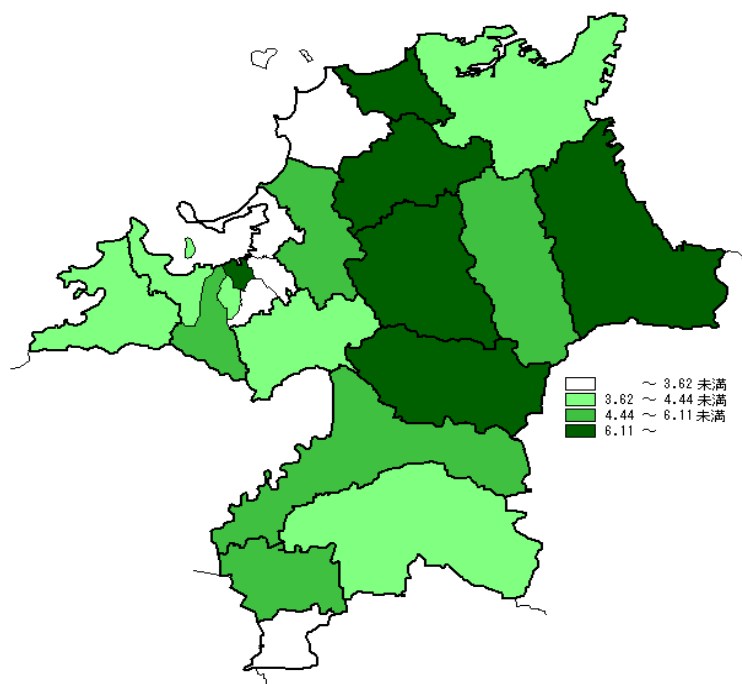


図3.12 保健所管内別にみた周産期死亡率（出産千対）（平成19年・福岡県）

(6) 高齢者（65歳以上）死亡

65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移を第3.8表及び図3.13に示す。平成19年推計人口（県調査統計課）によると、本県の65歳以上の日本人人口は1,054,701人で、全人口の21.0%を占めている。平成19年の本県の高齢者における死亡数は36,691人、死亡率（人口千対）は34.8であった。

第3.8表 65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率（人口千対）の推移

年次	福岡県		全国		年次	福岡県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率		死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和45年	16,738	57.1	438,362	60.0	平成2年	24,526	41.0	604,674	40.7
昭和46年	16,342	54.1	421,076	55.4	平成3年	24,809	39.6	614,564	39.6
昭和47年	16,592	52.8	423,758	54.4	平成4年	25,599	39.2	638,491	39.5
昭和48年	17,294	52.9	450,444	55.4	平成5年	27,035	39.8	660,682	39.2
昭和49年	17,459	51.4	459,547	54.5	平成6年	26,105	36.8	663,310	37.9
昭和50年	17,897	50.4	459,385	52.0	平成7年	28,398	39.1	704,092	38.7
昭和51年	18,414	49.6	467,882	51.1	平成8年	27,334	36.3	686,592	36.2
昭和52年	17,951	46.1	461,528	48.4	平成9年	28,469	36.3	706,772	35.9
昭和53年	18,244	45.0	471,961	47.7	平成10年	29,417	36.3	726,336	35.5
昭和54年	18,523	43.9	470,621	45.8	平成11年	31,303	37.4	771,475	36.5
昭和55年	20,097	47.1	503,067	47.4	平成12年	30,465	35.1	757,558	34.5
昭和56年	19,629	44.4	503,840	45.9	平成13年	30,622	34.2	771,415	33.9
昭和57年	19,463	42.8	497,728	44.0	平成14年	31,517	34.1	786,960	33.4
昭和58年	20,651	44.2	520,320	44.7	平成15年	32,944	34.8	818,922	33.8
昭和59年	20,672	43.2	521,403	43.8	平成16年	33,262	34.4	834,233	33.7
昭和60年	21,463	43.0	535,260	43.3	平成17年	34,807	35.0	888,893	34.6
昭和61年	21,258	41.2	535,233	41.7	平成18年	35,681	34.8	895,829	33.8
昭和62年	21,684	40.6	537,502	40.5	平成19年	36,691	34.8	923,666	33.8
平成元年	23,169	40.1	574,407	40.3					

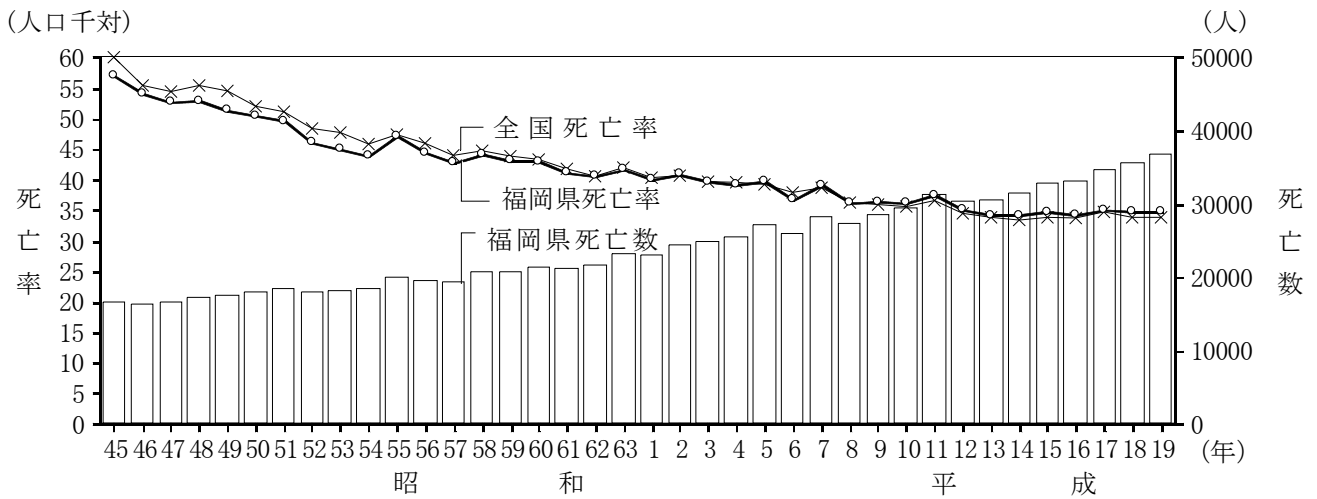


図3.13 65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移

65歳以上の高齢者の性別・死因別にみた死亡数及び死亡割合を図3.14に示す。平成19年の本県の65歳以上の高齢者における死亡数は、男が17,950人、女が18,741人であった。性別・死因別の死亡数をみると、男で最も多かったのは悪性新生物であり、6,433人（35.8%）であった。次いで、肺炎が2,358人（13.1%）、心疾患が1,993人（11.1%）であった。また、女で最も多かったのは悪性新生物であり、4,689人（25.0%）であった。次いで、心疾患が2,962人（15.8%）、肺炎が2,286人（12.2%）であった。

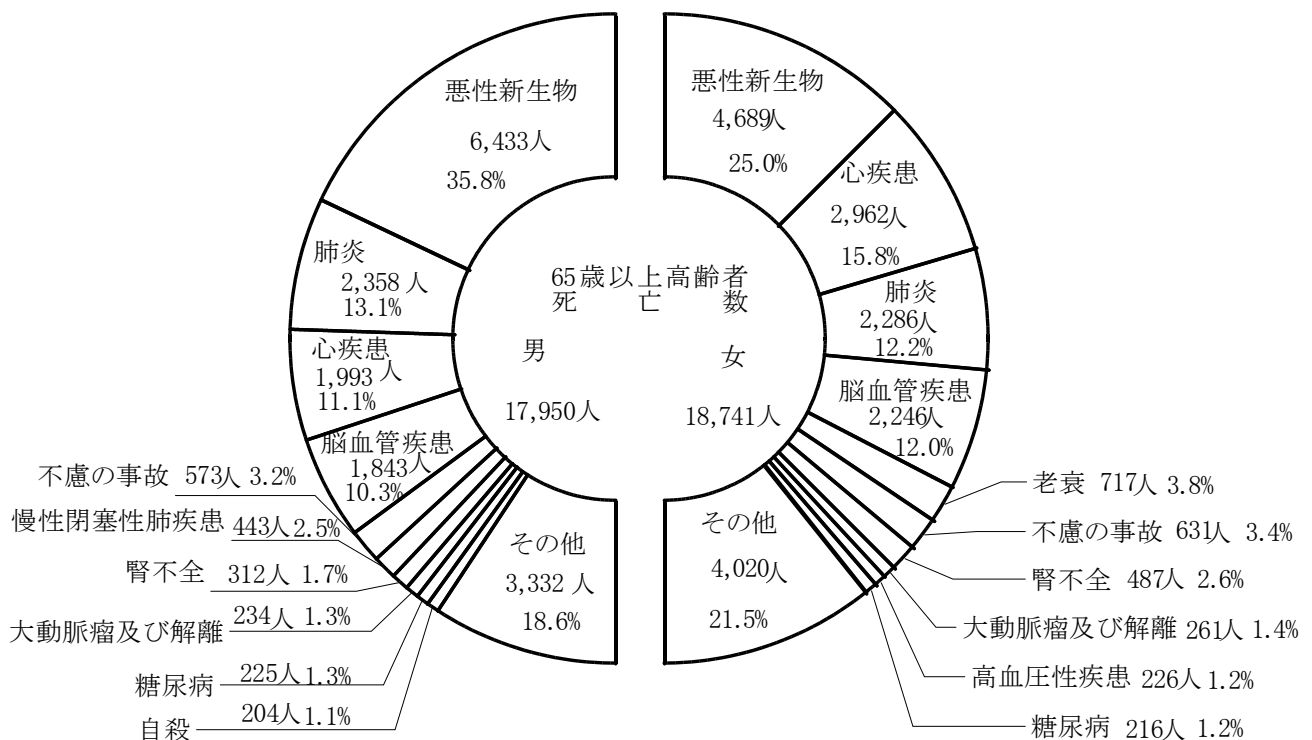


図3.14 65歳以上の高齢者における性・死因別にみた死亡数及び死亡割合（平成19年・福岡県）

4 死 産

死産数及び死産率の推移を第4.1表に示す。平成19年の本県の死産数は1,451胎、死産率〔出産（出生＋死産）千対〕は30.3であった。また、自然死産数は534胎、自然死産率は11.2、人工死産数は917胎、人工死産率は19.2であった。

第4.1表 死産数・死産率（出産千対）の推移

年 次	総 数			自 然			人 工		
	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国	福 岡 県		全 国
	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率
昭和25年	10,752	89.7	84.9	5,027	41.9	41.7	5,725	47.7	43.2
〃 30年	9,947	115.2	95.8	4,269	49.4	44.5	5,678	65.7	51.3
〃 35年	10,427	134.1	100.4	4,966	63.9	52.3	5,461	70.2	48.1
〃 40年	7,949	103.5	81.4	4,285	55.8	47.6	3,664	47.7	33.8
〃 45年	6,199	81.7	65.3	3,602	47.5	40.6	2,597	34.2	24.7
〃 50年	4,793	63.2	50.8	3,009	39.7	33.8	1,784	23.5	17.1
〃 55年	3,753	55.1	46.8	2,044	30.0	28.8	1,709	25.1	18.0
〃 60年	3,588	57.5	46.0	1,543	24.7	22.1	2,045	32.8	23.9
平成 2年	2,689	52.9	42.3	1,051	20.7	18.3	1,638	32.2	23.9
〃 7年	1,935	39.7	32.1	683	14.0	14.9	1,252	25.7	17.2
〃 8年	1,985	39.8	31.7	740	14.8	14.7	1,245	24.9	17.0
〃 9年	1,897	38.4	32.1	637	12.9	14.2	1,260	25.5	17.9
〃 10年	1,914	38.5	31.4	687	13.8	13.6	1,227	24.7	17.8
〃 11年	1,899	39.1	31.6	647	13.3	13.7	1,252	25.8	17.9
〃 12年	1,858	37.8	31.2	593	12.1	13.2	1,265	25.7	18.1
〃 13年	1,856	38.0	31.0	619	12.7	13.0	1,237	25.3	18.0
〃 14年	1,795	37.2	31.1	579	12.0	12.7	1,216	25.2	18.3
〃 15年	1,716	36.7	30.5	556	11.9	12.6	1,160	24.8	17.8
〃 16年	1,792	38.2	30.0	585	12.5	12.5	1,207	25.7	17.5
〃 17年	1,605	35.6	29.1	556	12.3	12.3	1,049	23.3	16.7
〃 18年	1,495	31.9	27.5	505	10.8	11.9	990	21.2	15.6
〃 19年	1,451	30.3	26.2	534	11.2	11.7	917	19.2	14.5

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成19年の本県の保健所管内別にみた死産率を図4.1に示す。最も死産率が低かったのは八女16.4だった。次いで福岡市西区19.3、福岡市城南区21.3、福岡市南区24.0の順であった。

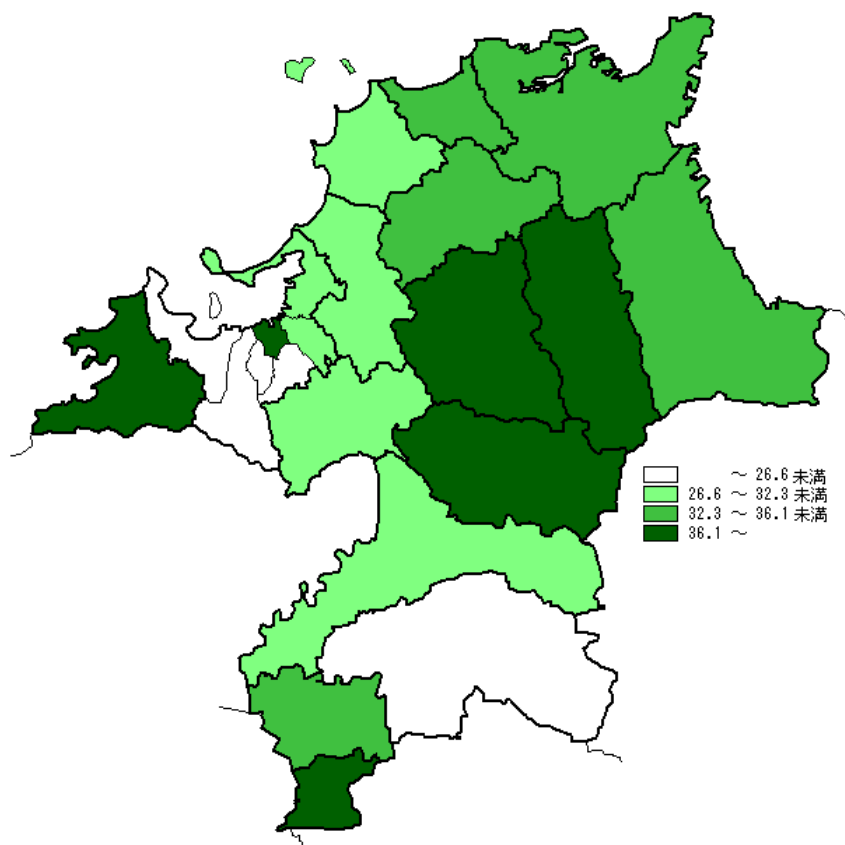


図4.1 保健所管内別にみた死産率（出産千対）（平成19年・福岡県）

5 婚 姻

婚姻件数及び婚姻率の推移を第5.1表に示す。平成19年の本県の婚姻件数は29,486件、婚姻率（人口千対）は5.9であった。

第5.1表 婚姻件数・婚姻率（人口千対）の推移

年次	福岡県		全国		年次	福岡県		全国	
	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率		婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率
昭和22年	39,288	12.4	934,170	12.0	// 7年	30,355	6.2	791,888	6.4
// 25年	32,614	9.2	715,081	8.6	// 8年	30,821	6.3	795,080	6.4
// 30年	31,424	8.1	714,861	8.0	// 9年	30,413	6.2	775,651	6.2
// 35年	37,184	9.3	866,115	9.3	// 10年	30,796	6.2	784,595	6.3
// 40年	37,816	9.5	954,852	9.7	// 11年	29,708	6.0	762,028	6.1
// 45年	38,206	9.5	1,029,405	10.0	// 12年	30,640	6.1	798,138	6.4
// 50年	36,937	8.7	941,628	8.5	// 13年	31,143	6.2	799,999	6.4
// 55年	32,007	7.0	774,702	6.7	// 14年	30,358	6.1	757,331	6.0
// 60年	29,208	6.1	735,850	6.1	// 15年	29,284	5.8	740,191	5.9
平成 2年	27,377	5.7	722,138	5.9	// 16年	28,490	5.7	720,417	5.7
// 3年	28,091	5.8	742,264	6.0	// 17年	28,715	5.7	714,265	5.7
// 4年	28,756	6.0	754,441	6.1	// 18年	30,006	6.0	730,971	5.8
// 5年	30,222	6.2	792,658	6.4	// 19年	29,486	5.9	719,822	5.7
// 6年	29,816	6.1	782,738	6.3					

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成19年の本県の市区町村別にみた婚姻率を図5.1に示す。最も婚姻率が高かったのは粕屋町10.40であった。次いで福岡市博多区9.00、福岡市中央区8.62、築上町6.82の順であった。

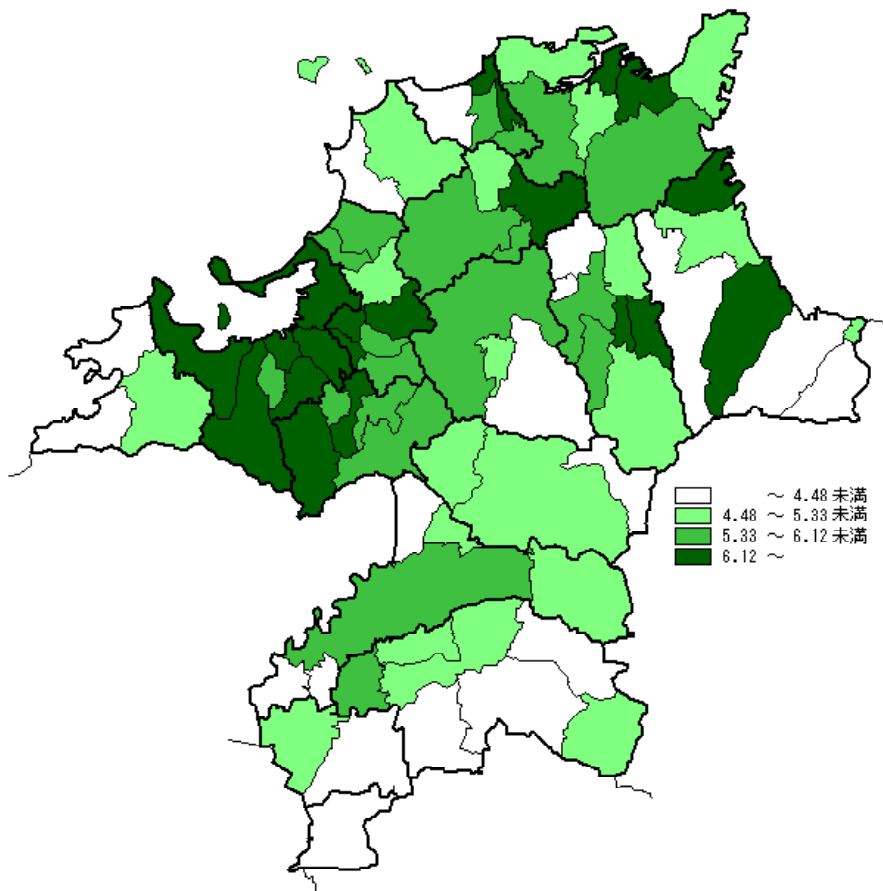


図5.1 市区町村別にみた婚姻率（人口千対）（平成19年・福岡県）

6 離 婚

離婚件数及び離婚率の推移を第6.1表に示す。平成19年の本県の離婚件数は11,115件、離婚率は2.22であった。

第6.1表 離婚件数・離婚率（人口千対）の推移

年 次	福 岡 県		全 国		年 次	福 岡 県		全 国	
	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率		離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率
昭和22年	3,918	1.23	79,551	1.02	〃 7年	9,064	1.85	199,016	1.60
〃 25年	4,402	1.25	83,689	1.01	〃 8年	9,581	1.94	206,955	1.66
〃 30年	4,336	1.12	75,267	0.84	〃 9年	10,455	2.11	222,635	1.78
〃 35年	3,971	0.99	69,410	0.74	〃 10年	11,069	2.23	243,183	1.94
〃 40年	4,113	1.04	77,195	0.79	〃 11年	11,577	2.33	250,529	2.00
〃 45年	4,879	1.22	95,937	0.93	〃 12年	12,053	2.42	264,246	2.10
〃 50年	5,655	1.33	119,135	1.07	〃 13年	13,230	2.65	285,911	2.27
〃 55年	7,156	1.57	141,689	1.22	〃 14年	13,241	2.64	289,836	2.30
〃 60年	8,918	1.88	166,640	1.39	〃 15年	12,779	2.55	283,854	2.25
平成 2年	7,699	1.61	157,608	1.28	〃 16年	11,870	2.36	270,804	2.15
〃 3年	7,986	1.66	168,969	1.37	〃 17年	11,567	2.31	261,917	2.08
〃 4年	8,420	1.75	179,191	1.45	〃 18年	11,291	2.25	257,475	2.04
〃 5年	8,822	1.82	188,297	1.46	〃 19年	11,115	2.22	254,832	2.02
〃 6年	9,052	1.86	195,106	1.57					

注：昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成19年の本県の市区町村別にみた離婚率を図6.1に示す。離婚率が最も低かったのは星野村0.29であった。次いで、東峰村1.14、小竹町1.23、広川町1.24の順であった。

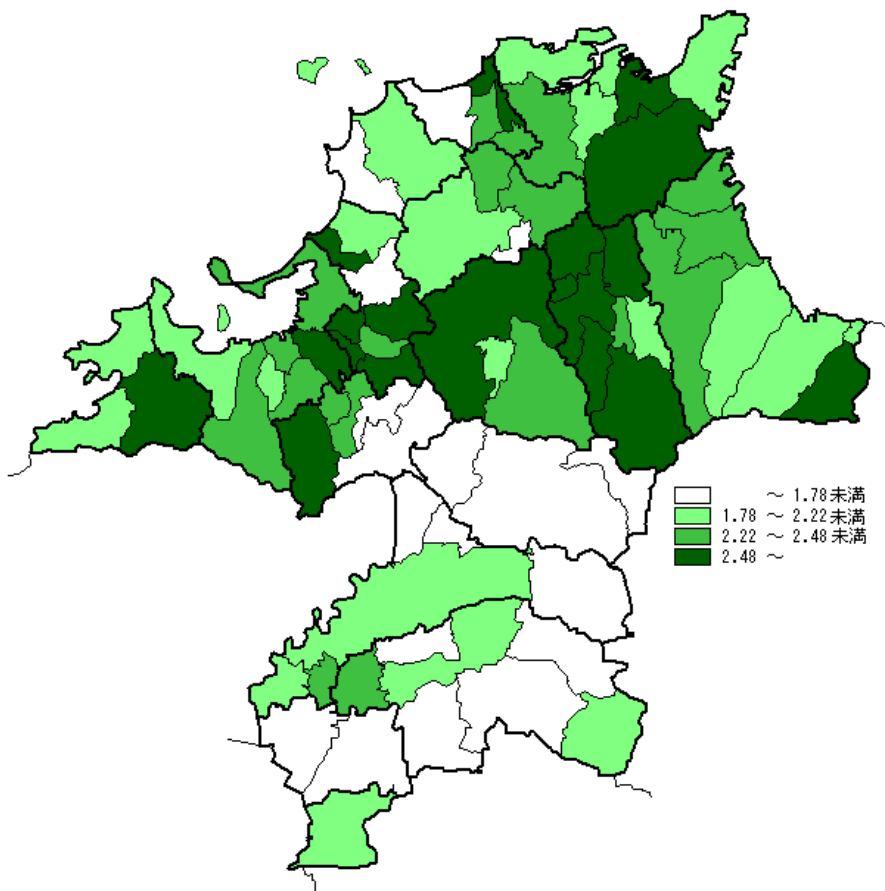


図6.1 市区町村別にみた離婚率（人口千対）（平成19年・福岡県）